

番号	ご意見 ※個人情報を除き、原則原文のまま記載	審議会としての対応方針（案）
1	<p>毎回丁寧な説明ありがとうございます 二中、六中の合併、新規学校の案に賛成です 今後も小規模校で維持ができる見通しがあるなら、この案が上がりたとうし、必要があるからこそ今検討が行われていることを理解しました 統合にあたり実際に学ぶ生徒、保護者、教師の要望や意見を良く聞いて進めて欲しいです 一番近い人達が出した結論に納得し受け入れ支えるのが地域のできる事だと考えます 子ども達の学びを止めない、先生達が生き生きと働けるのであれば、どんな学校の形であれ支えて行きたいと思っています</p>	<p>子どもの学びを第一に審議を進め、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。今回いただいた意見も踏まえて、今後も審議を進めてまいります。審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。</p>
2	<p>ある程度の規模の教育施設を保つために小中学校の統廃合を進める案には大賛成です。 児童にとっては学校は社会性を育むメインの場所であり、そこでたくさんの同世代の人間と関わり合うことは、学ぶ姿勢、多様性や協調性を育む上で有利に働きます。 それだけでなく、指導体制や急な休みの教員をカバーするなどの教員同士のサポートがしやすい点、通学児童一人当たりにかかる建設コストの削減、将来に渡っての管理維持費の面からも統廃合がベストな案であると思います。 同時に、規定通学距離以上の児童には自転車通学を許可することも必要になってくると思います。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。また、通学距離が遠くなることについて、自転車通学を認めることや学区の弾力化などの意見が審議会でも出ていました。</p>
3	<p>・今後長期的にみれば東京でも少子化が進むことは確実であり、何十年も利用する校舎の改築にあたって、二中と六中を統合することはとても妥当な判断だと考えます。特に、審議会において学校長から「一定の規模のある学校が望ましい」という意見が述べられていることから、子どものためにもやはり統合が望ましいと理解しました。現場を熟知して現場を運営する立場からの意見が一番重要だと思います。学校統廃合や学区変更はどうしても反対意見がつきものとは思いますが、他自治体でも進められていることだし、はっきり意思決定した上で今後は新たな二中をより良い学校にしていこうと尽力してほしいです。また、二中と六中のスムーズな統合に向けて、校舎以外の面でも適切な取り組みを期待します。特に、在学中に統合を経験する学年について六中の高価な制服を廃止したり、部活動等で両校の交流を増やしたり、自転車通学のトライアル実施をする等が考えられると思います。 ・小学校の改築においては、学校としての施設だけでなく、学童/あそべのスペース拡大や導線改善もよくよく重視して進めてほしいです。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。小学校の改築における、学童、あそべの必要面積や動線について、今後の審議の参考とします。</p>
4	<p>二中と六中が一つになると、生徒の人数が多くなり、多種多様な交流が生まれる可能性があると思う。一方で、個別のニーズに対応したきめ細かい指導が難しくなると感じる。全体的な視点と個別の視点の両方をもって、校舎のレイアウトや個別のニーズにも合う組織づくりを行ってほしい。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。全体的な視点、個別の視点の両面への配慮について、今後の審議の参考とします。</p>
5	<p>学校は非常に長く使い続ける公共施設であり、その中では学校教育のありようも変わっていく中で、長期を見通した計画を策定することは大変な努力を要すると思います。その熟慮と努力に敬意を表します。 第二期武蔵野市学校施設整備基本計画中間のまとめについて、感じたことを記します。 ○学びの充実に向けた教育環境の整備 6～7P 10年前に横田基地内の小学校を見学する機会がありました。校舎の真真中に開放的な図書室があり、司書の方がいて、その一角にはプロジェクターやPCがありプレゼンができる空間も用意されていました。児童たちがあつまり、議論・発表しあう場が、校舎の中心にあるのだなと思いました。教室の中に、特別支援教室？と思われる教室があり、その部屋の中には、ソファや、パーカウンターにハイチェアがあったり、床に寝転んで本が読めるスペースがあったりと、子どもたちが自由にくつろいで授業を受けられる空間となっていました。思わず日本の学校は刑務所のようなものと思ったものです。知恵は、人と人の間に生まれるもの、と教わりました。ぜひ、子どもたち同士が交流しやすい学校づくりに配慮いただければと思います。 ○老朽化への対応 8P 課題に記載のとおり、入札不調が起こりうることも考慮すれば、改築が最後のほうの学校は築後60年をかなり過ぎることが予想される。その時点で延命工事をやるタイミングは、すでに過ぎていて、効果がないことに留意しておく必要がある。 ○財政の現状と今後の予測 11P 今後30年、投資的経費を支出しても、基金残高が残るとシミュレーション結果は、他市では考えられない、武蔵野市の財務状況が極めてよいことを示しています。ただ、インフレの時代に入ってしまったため、投資的経費の支出を計画的にできない場合は、基金の価値が目減りするだけで、資産が実質的に目減りし、せっかくの健全な財務基盤が座して棄損していくことに留意しておかないといけないと思います。インフレの時代なので、キャッシュは何もなくても価値がなくなっていく（借金もその重みが自然と小さくなっていく）ので、（建設工事を行い）固定資産の建物に替えないといけないということです。 ○未来における教育を見据えた校舎のあり方について 13P 新しい校舎についてです。一中、五中を見て、ラーニングコモンズを校舎の真真中に設けることは、よいことだと思います。ただ、特別教科の教室すべてにも必要なかは、疑問が残りました。廊下もゆったりとっていいのですが、生徒数に比べて、施設に占める共用部分の面積がやや大きすぎるのではないかと感じられました。 ○市立中学校の敷地状況・市の財政状況について 14P 先に述べたとおり、インフレの時代であるため、基金を減らして、市債を増やして、施設（固定資産）を建設するのが、肝心かと思います。 ○小中学校の適正規模について 14P 全人格教育である小学校については、標準規模よりも小さくても、きめの細かい指導ができるメリットがあります。逆に中学校においては、一定の規模を確保することが、生徒同士の切磋琢磨や、多様な人間関係の形成、部活動や教育活動の選択肢の広さ（行事など）、専門性の高い教員配置ができるなどのメリットとなります。適正規模を下回ることにより、各教科に常勤教員を配置できず、非常勤教員の配置となると、授業はよくとも、教科の準備や特別教室の管理に支障をきたし、各種調査や教務において教員の負担が増えるためよくありません。 ○適正規模を下回る中学校に対する方策 14P 上記理由から、人口推計によれば、審議会でもまとめた適正規模から、3～4校となるのであれば、3～4校に中学校を再配置すべきと考えます。当面二中と六中は統合すべきです。 以上、よろしく申し上げます。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。また、老朽化への対応について、計画的な改築が必要であると認識しています。</p>
6	<p>どの学校も老朽化が進んでいる状況とさらに進む少子化を考えると学校数を減らしてまとめた大きな学校作りがよいように感じています。、小さな学校、大きな学校それぞれの良さや課題はあると思いますが、多様な関わりを学ぶために個人的には、大きな学校作り、その中に細かなサポート体制、柔軟なシステムを組み合わせるとよいのではないかと感じています。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。また、校舎の使い方について、ご意見として承ります。</p>
7	<p>武蔵野市の今後の学校改築において、学校再編を検討する方針が示されたことは、将来の教育環境を守る上で極めて重要な判断であり、適切な方向性であると考えます。今後の学校改築にあたっては、子どもたちの学びを何よりも最優先に考えて検討することが重要であることは言うまでもありません。そのうえで、学校施設は一度整備すれば80年、100年と長期間使用されることから、50～60年先を見据えて施設整備を検討していくことが不可欠です。 今後、人口減少や児童生徒数の減少が避けられない中で、小規模な学校をそのまま維持し続けることは、教育の質の確保という観点から課題が顕在化すると懸念します。学校は単に建物を残すことが目的ではなく、子どもたちが多様な人間関係の中で学び合い、社会性を育む場であるべきです。そのためには、一定規模の集団の中で切磋琢磨できる教育環境を確保することが重要です。 特に中学校は教科担任制であり、専門性の高い授業に加え、部活動や行事、生徒指導など多様な教育活動を支えるためにも、一定規模の学校が望まれます。一定規模を確保することで、特別支援教育や生徒指導、学習支援などにおいても、複数教員による連携・相談が日常的に可能となり、より丁寧で質の高い支援体制を構築できると考えます。教員が孤立しない環境は、結果として教育の質の安定につながり、子どもたちにとっても安心して学べる学校づくりに直結します。 以上を踏まえ、学校の再編については、将来にわたって教育環境の質を確保する上で不可欠な検討事項であると考えます。丁寧な説明と合意形成を図りながら、前向きに進めていただきたいと思います。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。</p>
8	<p>これまで多様な角度から協議を重ねられてきたと思います。真剣な議論ありがとうございます。各識者からのいろいろな考えの中、すべてが納得できるものを示さねばならないのは正直難しいと思います。熟慮を重ねた結果、おのずと「ベスト」というよりは「ベター」というものとなるのも致し方ないと思います。しかしながら、かぎりなく「ベストに近いベター」を選択していただきたいです。 地域住民としての意見です。当然、「学校」は子供たちの学舎という存在意義が大前提になるとして、他方、地域のシンボル/象徴的空間としての存在意義もあります。地域の人間関係づくり、地域文化の継承、学校は「学校」を媒介として地域に大きな役割を果たしていることもぜひ、考慮し、計画を進めていただけたらと思います。それは、「今まで通りで何も変えない」ということではなく、それぞれ地域コミュニティにとっても「ベスト」な形を目指していただけたら…と考えます。武蔵野市は、地域コミュニティ、ptaなど比較的、ゆるやかでありながら連携が有機的になされていると思います。そうした良いカルチャーを継承していける、地域づくりを学校改築に期待します。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。また、地域における学校施設のあり方について、ご意見として承ります。</p>

9	<p>中学校統合することはいまの時世いたしかないと思います 資材高騰 子どもが少ない中学は部活もできませんし友達関係も難しくなるかと思ます</p> <p>新しい学校を作るにあたり何点か 新1中 新5中を見学させていただきました 本当に素晴らしいと思います が、変な所にお金をかけているような気がします オープンにある階段 なぜ段が違うのでしょうか？普段でもましてや避難する時などとても危ない しかもう今はパイロン置いています そしてこれから作る学校は今の1中、5中の働いている人の声を聞いてください 先生達、用務さんや、事務さん、給食配置員、音楽室であれば音楽の先生などに、そしてその声をいかして無駄なく作って欲しいです もう一つは体育館 これからの東京 夏が暑すぎます 大きな体育館を作って体育や行事 休み時間を体育館でできるように 避難所にもなる場所です ぜひ大きな体育館にしてほしいです よろしく願いいたします</p>	no.1の回答をご参照ください。また、現行の武蔵野市学校施設整備基本計画に基づき改築事業を進めた学校の実績、課題も反映して審議を進めます。
10	<p>審議会では様々な立場の委員が、子どもの学びを第一に活発な議論をしていた。</p> <p>将来的に、全市的に生徒数が減ること、教員不足が深刻であり、指導体制を整えることが子どもの学びを確保するために重要であることを考えると、二、六中の再編が望ましいという審議会の方針は妥当だと考える。</p> <p>万能な方策はなく、どの方策であってもメリット、デメリットがあるため、デメリットを減らすための議論こそ重要だと思う。</p>	no.1の回答をご参照ください。
11	<p>2中、6中の再編に賛成です。</p> <p>教員のなり手が少なくなり、教員のみなさんが苦労しているとニュースでも耳にします。</p> <p>中間まとめでは、教員の数と学級数が連動しているということがわかり、ある程度の学級数、学校規模が必要なんだと感じました。</p> <p>2中、6中の生徒数推計を見ても適正規模に満たない規模になる見込みなので、教員の働き方改革の視点、教育を受ける子どもの視点から、両校の再編は必要なことだと感じました。</p> <p>また、再編により、財政的にもメリットがあるようなので、子どもに関する分野の事業費に回してもらいたいです。</p> <p>未来の子どもたちに多くの借金を残さないようにしてください。</p>	no.1の回答をご参照ください。
12	<p>将来の生徒数減少を見据え、学びに適した学級数を維持することで、多様な刺激や活気ある教育環境が保たれる再編案に賛成します。</p> <p>日頃から学校を支えている関係者にとっては、地域の学校が無くなることはさみしいことだと思います。</p> <p>どうぞ丁寧に進めてください。</p>	no.1の回答をご参照ください。
13	<p>切磋琢磨できる集団規模の確保は、子どもの社会性や協調性を育むうえで不可欠であるため、計画の中間まとめを支持します。</p> <p>自身の経験からも、中学校の学年4から6学級は最適だと思います。</p> <p>未来の教育がどうなっているのか想像するのは難しいのですが、学識経験者を中心に議論を深めてください。</p>	no.1の回答をご参照ください。
14	<p>二中と六中は再編して統合新校をつくることに賛成。武蔵野市は私立中学に進学する生徒が多いのだが、現状の市立中学校は物足りないと思われているからではないか。中学生は生まれた地域の中で、より多様な人間関係を体験することで、その後の人生が豊かになり、地域も豊かになる。ただ、1学年2～3クラスでは中学校としては物足りない。ある程度の規模があり、先生たちが協力しながら教育の質を高め、子どもたちも地域での友人関係を広げることができる市立中学校であれば、生徒は通いたくなり、保護者も通わせたいと思う。再編すると通学範囲が広がるが、自転車通学を認めれば10分程度で通える。武蔵野市の学校は敷地が狭いが、敷地の制約がクリアできれば、再編するのがよい。適正規模を一律に適用するのではなく、地域の実情や物理的な条件を考えて再編を検討することは当然のこと。今まであった中学校がなくなる再編には賛否両論あると思うが、市立中学校を今のまま残すのではなく、積極的な再編により付加価値をつけて、今よりバージョンアップしてほしい。</p>	no.2の回答をご参照ください。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・施設減→施設開放利用団体の行き場問題 ・統合することで片方が空き地になる→市有地の活用計画。(給食センター改築時、旧校はスポーツ公園になるという計画だった)土地を有効に活用してほしい。 ・その空き地を売却しマンション建てたりすることは反対。 ・新しい学校のビジョンを明確に。例えば不登校特例学級併設の学校、小中一貫校など。統合はそのビジョンの手段でありゴールではない→市民も受け入れやすい。 	no.1の回答をご参照ください。また、第六中跡地利用については、市全体の公共施設再整備の中で検討がされるものと認識しております。
16	<p>二中と六中が合併するときは、地名にちなんだ新しい名前がよいです。二中六中ともに地域で思い入れがあるので、新しくスタートできるほうがよいと思います。</p> <p>新しく建てる校舎は、デザイン性もですが、子ども達の安全を考えた設計が良いです。</p> <p>(段差をなるべくなくす、階段や廊下を広くとる、長い階段は作らない、設備面では各教室に内線を繋ぐ、死角となる場所にカメラを設置するなど。)</p> <p>五中や一中を拝見すると、新しい校舎で伸び伸びと学べる環境がすてきなと感じるので、ぜひ今後も計画通りに建て替えができるよう願っています。</p>	no.1の回答をご参照ください。また、子どもの安全確保について、しっかりと考えてまいります。
17	特にありません。	令和8年度も引き続き審議会における審議を進めてまいります。
18	<p>教育委員会の方針に従います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>	no.17の回答をご参照ください。
19	人数が多い学校は校務分掌が分散され、働く教員にとってありがたいです。	ご意見いただいたように、学校の校務分掌分散により、子どもの学びを充実させる等の観点からも、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。
20	教育面、建築面、財政面からも、再編し、統合新校を設置することが望ましいと思いました。	ご意見いただいたように、子どもの学びを第一に、建築面、財政面等の観点も踏まえ、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。
21	再編して統合新校を設置することが、教育面や財政面からみても望ましいと考えます	no.20の回答をご参照ください。
22	<p>子どもが通っていた思い出の6中、孫が通う予定の6中をなくさないで下さい。建替えに当たっては財政上の都合や国の方針ではなく、子ども達にとって過しやすい環境を作ってほしいです。</p> <p>再考を切に願っています。</p>	子どもの学びを第一に審議を進め、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。今回いただいた意見も踏まえて、今後も審議を進めてまいります。審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。また、思い出の学校がなくなることについて、寂しい思いをされていると認識しています。統合新校にしっかりと伝統を引き継いでいく取組みが重要だと認識しています。
23	<p>施設改善はどんどんしてほしい</p> <p>規模の縮小は構わないが廃校にはしないでほしい</p>	no.1の回答をご参照ください。
24	<p>六中二中の編成案に反対です。なぜ編成の必要があるのかも、理解できません。学級数の予測も該当しないのに何故、案が一人歩きしているのか。理解できません。子ども達の学びの場所として狭いなら、隣地のプレーパーク・旧神社を当てれば十分な面積になると思います。六中地域にとって大事な学校を安易に無くさないでください。地域を挙げて存続を応援しています。防災・地域の拠点として活用可能な第六中学校になってほしいと心から願っています。ずっと近隣に住んで代々六中卒業生として生活している私達の意見をもっと大事にして欲しいです。</p>	no.1の回答をご参照ください。また、ご意見いただいたように、中学校6校の中で敷地面積が一番狭い第六中に隣接する神社、境冒險遊び場公園敷地を学校敷地として取り込むことができれば、敷地条件のデメリットは改善されます。しかし、20年後の生徒数が現在よりも増えても、審議会としてまとめた適正規模には満たない規模のため、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点で課題が残ります。
25	<p>「第六中学校と第二中学校を再編し統合新校を設置する」に反対です。理由は下記の通りです。</p> <p>子供は地域や国の将来を支える宝だと思います。ですから小中学校は何をおいても最優先で予算を配分すべきところです。将来減りそうだからと考えてしまえばそれに備えて再編するのではなく、少しキャパシティにゆとりのあるぐらいの容量で中学校を維持しておいて、子育て世代を地域に呼び込んだり夫婦にもう一人子供を産む選択を後押しする気概が欲しいです。</p> <p>また、建て替えの時に仮設校舎が必要になる、お金がかかるから再編して統廃合するという考え方はそもそも持続性がないです。その考え方で行くと改築年ごとに中学校の数が半分になっていき、60年ごとに改築するなら240年後には武蔵野市から中学校がなくなります。目の前の財政さえ良ければよいという発想はやめてください。</p> <p>不登校の子供が増えています。不登校防止や再登校促進の観点からも、ひとりひとりに目が届くよう小規模維持のほうが良いです。もちろん通学時間の観点からも小規模維持の方が良いです。</p>	no.2の回答をご参照ください。なお、令和7年度に実施した児童生徒数推計によると、20年後は市全体として児童生徒数が減る見込みです。

26	<p>未来の武蔵野市にふさわしい「ネットワーク型」学校環境の提案 武蔵野市の素晴らしい教育環境を次世代に繋ぐため、『小規模の良さ』と『広域的な連携』を掛け合わせた新しい学校モデルを、ぜひ検討の趣上にご掲載ください。</p> <p>子供たちの将来の負担や安全、そして地域との繋がりを総合的に考え、物理的な統合だけではなく、心豊かな解決策を共に探っていくことを願っています。</p> <p>1. 「小規模の良さ」を最新技術で伸ばす選択 少人数ならではの温かい教育環境を維持しながら、課題とされる「多様な意見に触れる機会」はテクノロジーで解決可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事実（高知県・徳島県等）」：遠隔教育システムを活用し、小規模校同士をオンラインで繋いで合同授業を行う取り組みが成果を上げています。 ・「提案」：ICTインフラが充実した武蔵野市こそ、物理的な統合に頼らず、デジタルで「多様な学び」を補完する「教育DXによる小規模校維持モデル」を先駆的に検討してはいかがでしょうか。 <p>2. 「学校間ネットワーク」による教員のサポート 教員が孤立せず、専門性を高め合える環境は、学校を減らさなくても構築できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事実（イギリスの「学校連合」等）」：複数の小規模校が独立性を保ちつつ、事務局や専門教員を共有し、巡回・連携して指導にあたる仕組み（フェデレーション）があります。 ・「提案」：先生方が校種を超えて知見を共有できる「流動的な連携体制」を構築することで、学校の規模に関わらず、質の高い教育を安定して提供できると考えます。 <p>3. 子供たち一人ひとりに目が届く安心感の維持 不登校やいじめの早期発見が重要視される今、小規模校の「全員が全員を知っている」環境は大きな財産です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事実（大規模校のリスク）」：一般的に学校が大規模化するほど、一人ひとりの小さな変化に気づく「多角的な目」が薄まる懸念が、国内外の教育研究で指摘されています。 ・「提案」：子供たちが埋没せず、安心して過ごせる現在の規模を「守るべき価値」と捉え、「きめ細やかな指導」と「集団での切磋琢磨」を両立できる運用の工夫を優先していただきたいです。 <p>4. 災害に強く、顔が見える地域コミュニティの継続 学校は、地域住民が最も信頼を寄せる避難所であり、交流の核です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事実（分散型の強み）」：学校が地域に分散していることで、災害時の避難環境の格差が抑えられ、迅速な初動が可能になります。 ・「提案」：効率化のための集約ではなく、地域ごとの「防災・コミュニティ拠点」としての機能を維持することが、武蔵野市が目指す持続可能なまちづくりに繋がるのではないのでしょうか。 	no.1の回答をご参照ください。
27	<p>第二中と第六中の再編統合には絶対反対です。私は、第二中学校と第六中学校の両方に勤務経験があります。第二中学区の最北西は、都立田無高校に歩いて行けるほどの場所になります。第六中学区の最南東は、三鷹四中に近い場所で、現在も学区の生徒は約30分程歩いて第六中に通っています。自転車通学をすれば、田舎の広く車の少ない道路と異なり、交通量が多い五日市街道の自転車レーンは無いても同然で大変危険です。毎日晴れた良い天気ばかりではなく、降雨、強風、時には台風や降雪、積雪もあります。休校にならない限り生徒は毎日通学します。3年間の自転車通学は、生徒の安全確保が脅かされます。改築予算の確保ができないのは、セカンドスクールに予算を使い過ぎなのではないのでしょうか？宿泊数を今の半分すれば確保できるではありませんか？小学校も2泊3日のセカンドにすれば、プレセカンドの必要は無くなるでしょう。中学校も2泊3日にすれば良いでしょう。ファーストスクールの予算よりセカンドスクールの予算が多過ぎて、ファーストスクールの日常生活に弊害も出ています。吹奏楽の楽器が壊れたら、修理予算が少なく残額不足で直せません。部活動、演奏会ができません。セカンドスクールの日数を減らし、予算化の見直しを急務です。</p>	no.2の回答をご参照ください。また、セカンドスクールについては本審議会の審議対象外ですが、武蔵野市の特色ある事業だと認識しています。
28	<p>現在、3歳になる子供がいます。地元ではありませんが、武蔵境エリアが大好きで、赤十字病院近くに住宅を購入予定です。子供は、公立学校に通わせる予定なので、この議論が大変気になります。境南1丁目エリアからだ6中ですら遠いので、統合には反対です。適正人数もあると思いますが、適正な通学時間も考慮していただきたいです。</p> <p>私は、境南小学校を小中一貫校としてほしいです。</p>	no.2の回答をご参照ください。
29	<p>第二中学校と第六中学校の統合は反対です。理由は、校区が広がることで通学が不便な生徒が増えるためです。</p> <p>また、プール改築検討の際の、50メートルプール廃止ありきの複数案、と同じ構造（＝中学校廃止ありきの複数案、要は安直）に見えてしまうためです。</p> <p>それよりも、たとえば近隣の小学校（二小）と中学校（六中）を統合（一貫校化）するというオプションを検討俎上に上げることはなかったのでしょうか？できないのでしょうか。三鷹市でも実績があるわけなので、できない理由はないと考えます。</p> <p>想像するに、 （メリット） ・通学区の維持、利便性担保 ・小中一貫校化で、生徒間の中長期的な関係性維持・強化が期待（中学生が小学生の面倒をみるなど、副次的な教育効果もでてくるのでは） ・校舎の効率的運用・転用（空いた土地は、民間転用で資金化→将来の投資費用として有効活用） ・「先進的な武蔵野市」というポジティブなイメージを強化できる機会にもなる （デメリット） ・統合化による追加費用発生（中長期的な財務的シミュレーションが別途必要） ・中学校学区内に統合メリットを享受できない小学校区が残存するリスクはある （六中の場合、境南小と二小が対象学区。六中と二小が統合した場合、境南小が享受できないというデメリットは否定できない。しかしながら、境南小には単独調理方式の給食など独自性を担保しているという、市内他校にはないユニークな取り組みもあり、異なる視点でのメリット創出は可能ではないか） ・小中学校の教員間の役割分担・コミュニケーションルール等の仕組み整備が必要（教育委員会からすると面倒が増えるだけでもある） ・小学校→中学校での転出者解消の切り札にはならない（土地柄、都立一貫校・私立高志向は不変） とメリット・デメリットの両面が考えられますが、もうすこし広い視点を持って検討いただきたいと願っております。</p> <p>とにかく、50メートルプールの二の舞にはしないで欲しいです。</p>	no.2の回答をご参照ください。
30	<p>「中間まとめ」の14ページ②建築面、③財政面という視点で、二中と六中を統廃合するの良いうちという考えはよく理解できました。一方で、①教育面の視点で、二中と六中を統廃合することが良いとする意見は理解できませんし、同意できません。</p> <p>「小中学校の適正規模については「1校12～18学級」という審議会まとめの記述を拠り所としているようですが、生徒たちの学校教育、学校生活設計において一番考えるべきは、学級数ではなく、1クラス当たりの生徒数です。</p> <p>近年（といっても、ここ30年ずつとですが）幼・保・小・中・高・大、全ての学校現場において少人数制が重要視されている中、なぜ、時代に逆行するようなことをしようとしているのか分かりません。「中間まとめ」の16ページ以降にも書かれている通り、学級数の多い/少ないはそれぞれにメリットデメリットがあり、現場の対応次第で良くも悪くもなるものです。それを「学級数」ありきでこれを固定したり、議論の中心に置くものではありません。現に、国内の各自自治体には、学級数の多い学校もあれば、少ない学校もあり、それぞれに特色を持って生徒にとって最善の学校教育に努めています。「学級数」は、「全生徒数」を「理想とする1クラスあたりの生徒数」でわり算した結果の値に過ぎません。</p> <p>ぜひ「1クラス当たりの生徒数」を念頭に入れた議論をした上で、どのような学校の形が生徒たちにとって良い環境になるのかを検討していただくと嬉しそうです。よろしくお願いたします。</p>	1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。中間まとめに記載したとおり、学級数の多い学校、少ない学校それぞれにメリット、デメリットがありますが、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えています。
31	<p>二中と六中の合併は絶対にやめて欲しい。理由は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の生徒数について この先R12までの数年は中学生の増加は見込まれている。その後の推計も論拠なく減少することになっているが、昨今の地域開発状況を鑑みると人口は増加する可能性も高いと思われる。このため、中学校の数を減らすのは問題である。 ・費用について 現状、無駄な設備を使って費用が高くなっているように見受けられる。地域との連携スペース、学校 commons などの設備はいらない。 また、物価高での建築はの上昇のみ気にされているようだが、物価高と共に税収は上がるため考慮に値しない。 ・いじめについて 「いじめがあった時にクラスを変えられる」の意見も見たが、いじめなど言語道断であり、クラス替えなんかによるその場しのぎの対策をしようとしている時点で、施策として論外である。 ・地域とのコミュニケーションについて 家庭や地域の人のコミュニケーションは、中学校を合併せずとも深めることが可能。むしろ、合併することにより学校までの距離が離れてコミュニケーション不全になることも予想される。 ・クラス数について クラスが多すぎると、先生の目が行き届かない可能性が増えて、生徒にとって良くない状況に陥ることが想定される。 <p>合併の理由は全て納得感のない理由ばかりであり、到底許容できるものではないと考えております。</p> <p>よりよい地域を作りたいと考える住民の意見として、ご考慮いただきたくお願いたします。</p>	最新の生徒数推計では、第二中と第六中の生徒数の合計が数年間は18学級を超える規模になることが見込まれますが、統合新校を設置する数年後には審議会としてまとめた適正規模（12級以上18学級以下）になるものと考えられます。学校を改築にあたっては、60年以上にわたる長期的な活用を前提に、30年、50年後の子どもの人口が大幅に減少するという将来予測を見据え、一時的な動向ではなく、将来にわたって子どもの学びと教員の指導体制を維持できる長期的・持続的な視点での検討が強く求められると考えます。適正規模の学校の場合、教員が子どもたちに目を配れないという意見については、教員の数は学級数に応じて増えることになります。また、統合新校をより良い学校とするために、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。
32	<p>二中、6中の統廃合には反対です。小規模の方が丁寧な教育ができると思います。</p>	no.1の回答をご参照ください。
33	<p>両校とも地域に根ざしており、避難場所としての役割もあります。</p> <p>生徒にとっても愛着もあり、小規模校の方が、きめ細かい対応が期待できます。</p>	no.1の回答をご参照ください。

34	<p>母親代筆 「大人数と少人数の学校どっちがいい？」と質問しました。 子供の回答↓ 少人数。 質問がしやすいから。 先生に甘えられる。 大人数だと周りが騒がしく感じることもある。(集中できないという意味かと) 少人数だと寂しくはある。</p>	<p>質問のしやすさや周りの騒がしさは、学級内の児童生徒数によること大きいと考えます。一方、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えています。ご意見があるように、学級数の少ない学校ならではの教育もありますが、規模の大きい学校でも丁寧な教育は実現できると考えています。また、特に教員の指導体制確保について、学級数の少ない学校で正規教員が配置されない場合、人材が不足する中で、学校で講師を探す必要が生じます。なお、1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。</p>
35	<p>第二期学校施設設備計画基本計画策定審議会の中間まとめについて 「全市的な視点からみた中学校の適正な数」 ●第二期計画期間中に「改築を予定している第二・第六中については再編し、統合新校を設置することが望ましいに」についてのパブコメント 1. 武蔵野市の人口推計では、2052年まで増え続けるとの予測です。 第六中学校区域である第二小と境南小の児童数は近年増えてきていますし、特に境南小の増加は顕著です。長い目でみて、再編・統合は必要ないと思います。 2. 小・中規模校の良さは多いので、そのまま残すべきです。 ●学年ごとの先生たちの意思疎通がやすく、いじめなどの問題があっても対処しやすい。 6中にお世話になった私の娘は軽度の知的障害があり、時々トラブルを起こしていました。 ある日、娘の制服の背中に上履きの跡があるのを担任ではない先生が見つけた。その日のうちに学年集会を開いてくれました。家庭にも集会后すぐに知らせが入り、詳細な説明と対処方法を伝えてくれました。娘にとっては、悲しい出来事ではありましたが先生方の連携の良さと素早い対応でいじめは引きずりませんでした。学年が上がる時はクラス編成を考慮してくれていじめもなく、又友だちでも楽しい学校生活を終えることができました。これは小規模だからこそその利点だと思っています。 ●通学時間については境南の子どもたちは大幅に伸びてしまいます。中学生は成長著しい3年間でもあります。個人差も大きいです。特に1年生は、iPadや教科書他道具類等の持ち物の多い中での通学は体への負担が心配です。 ●施設の面では、校庭、体育館、その他の共有施設の使用調整がしやすい。 ●通学の面では、学区の子どもたちが6中に通学するには無理はなかったが、2中となると体力面や精神面においても負担が大きくなる。 以上の点を見て小・中規模校の良さは多いと思いますので再編・統合するのではなく残して下さい。 6中でお世話になった娘も言っております。「卒業した学校をなくさないで」と。</p>	<p>1. 武蔵野市の人口推計では、2052年まで増え続けるとの予測です。 令和7年度に実施した児童生徒数推計によると、20年後は市全体として児童生徒数が減る見込みです。 2. 小・中規模校の良さは多いので、そのまま残すべきです。 no.2の回答をご参照ください。思い出の学校がなくなることについて、寂しい思いをされていると認識しています。統合新校にしっかりと伝統を引き継いでいく取組みが重要だと認識しています。</p>
36	<p>子供たち一人一人に充実した教育が届くには大規模校は難しいのではないのでしょうか。国の方針ばかり見ないで子供たちを見て下さい。母校が無くなるのは寂しいでしょうし、そんな思いも汲んで欲しいです。</p>	<p>no.22の回答をご参照ください。</p>
37	<p>6中を是非残して下さい。子ども達有っての学校です。この地域の歴史と穏やかな雰囲気を残したい。</p>	<p>no.22の回答をご参照ください。</p>
38	<p>六中を無くさないで下さい! 地域から学校を奪わないで下さい。 2中、6中を合併すれば18クラスを超える大き過ぎる学校になってしまいます。 大きな中学校は、子ども達の心が荒れます。 過疎地でもなく、六中は、20年後の計算でも子どもの数が増える見通しにもかかわらず学校を無くすとは何事でしょうか。 中学校でも1クラスの定員が減ってくるはず。そうすれば必然的にクラス数は増えます。中学校での18クラス(1学年6クラス)は大きすぎます。 現在の1学年2〜3クラスくらいの学校でも、大きな学校でも「養護の先生」は、一人です。多感思春期真っ盛りの中生に対応してもらえない時間が無くなってしまいます。校長先生も、副校長先生も倍以上に増えた子ども達全員に目を配ることも出来ないでしょう。 大きな学校では、先生方の意思疎通も大変です。 何より、子ども達が学校が無くなるのを本当に悲しんでいます。 武蔵野市の地域的な条件で、学校統廃合する必要は全くありませんし、子ども達の教育的な配慮をするなら、統廃合はせず、単に学校改築を進めるべきです。</p>	<p>最新の生徒数推計では、第二中と第六中の生徒数の合計が数年間は18学級を超える規模になることが見込まれますが、統合新校を設置する数年後には審議会としてまとめた適正規模(12級以上18学級以下)になるものと考えられます。第六中は、20年後の生徒数が現在よりも増える見込みですが、適正規模には満たない規模であり、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点で課題が残ります。1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっており、今後の見通しは未定です。適正規模の学校の場合、校長、副校長が子どもたちに目を配れないという意見については、学級数に応じて増える教員と校長、副校長が連携することで対応できると考えられます。通学距離が遠くなることについて、自転車通学を認めることや学区の弾力化などの意見が審議会でも出ていました。思い出の学校がなくなることについて、寂しい思いをされていると認識しています。統合新校にしっかりと伝統を引き継いでいく取組みが重要だと認識しています。統合新校をより良い学校とするために、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。</p>
39	<p>中間まとめの説明会には2度参加してお話しを伺いました。 二中と六中は再編が望ましいとのことですが、私は反対です。 資料16ページのメリットデメリットで小規模存続のデメリットとして「仮設校舎が必要…」とあるが、そもそも建て替える場合に必要なことなので再編の際のメリットではあるが小規模存続の際のデメリットというのは違うのではないかと。 財政面でも再編にすれば50億円浮いて他に使えるとの事だが、それぞれ建て替えるための予算として使えるはずなのに「損」「勿体無い」イメージにされていると感じた。 そもそも敷地が一番広く生徒数が少ない五中が再編の候補に入らず、適正規模に満たないまま早々に建て替える済ませたのに、その適正規模を理由に再編が望ましいと言われても全く説得力がないと感じた。適正規模に満たなくても良いという良い例ではないのか。また二中は単独で適正規模の学校としてやっていけそうに思う。 説明会で質問があった中で「何度もワークショップなど行って進めてきた」というような回答があったが、私が参加したワークショップでは「未来の学校はどんな学校が良いか」という話で、参加した方々は「それぞれの学校を新しく建て替えるにあたりどんな風になったら良いか」を考えて意見を出していたと思う。 小規模存続でそれぞれの学校に学級の他に地域の人々も活動できるスペースなどを設けて災害時にも避難者が各学校に分散できるようにするべきかと思えます。</p>	<p>ご意見いただいたように、各校の改築に伴い仮設校舎の設置は原則必要ですが、第五中と第五小、第一中と井之頭小のように仮設校舎を兼用するなど、コストを抑制できる対策が講じられてきたと認識しています。また、コストだけでなく、第五中、第一中の仮設校舎で過ごした生徒や教員から、校舎が狭くなる等仮設校舎で生活する不便さを訴える声が市に届いており、審議会委員から小規模存続のデメリットとして発言があったものと認識しています。また、財政状況の豊かな武蔵野市とはいえ、未来の子どもたちに借金を残さないよう、コスト削減を検討することが必要だと考えています。また、統合新校の具体的な内容については、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。</p>
40	<p>2026年度から、国が中学校35人学級を段階的に進めていくと、二中と六中が統合した場合、今回まとめた「適正規模」18学級を超えてしまうため、子どもの学びを第一に考えるのであれば、統合は止めて、普通に建て替えるをした方が良いでしょう。 財政難や建築難のために、六中や二小の学校改築が困難であるのであれば、それをきちんと市民に説明してほしいと思います。 教員の切磋琢磨は、文科省や都教委も言っていない言葉であり、働き方改革、いきいきプロジェクトとも逆行する印象です。 担当職員の方々のご尽力に感謝しております。中間のまとめ説明会の質疑回答を拝見させていただきました。 私は、二中・六中の統合再編には反対です。理由は、当面とはいえ18学級を超える期間があり、生徒と保護者と教職員の負担が多いです。桜野小のことを考えると小規模少人数が大事だと思っています。 また、新校舎のラーニングコモンズや開放的な図書館、ステップ階段は、600人近い学校では生徒のケガが起きやすく心配です。 教員数は、12学級以上であっても、音楽、美術、技術・家庭は1人であり、その次の社会・理科も配置により必ずしも2人以上になるとは限りません。 教員が今の状態では切磋琢磨できないというのであれば、武教研を市教委が補助金を出して援助している意味や(武教研で授業研究をしたり、今はMSISで連絡は取り合えます)、市講師配置等を否定し兼ねないのではと懸念します。 また、建て替えが困難、仮設校舎は可哀想というのであれば、今回は老朽著しい二中だけを改築して、残りは全市的に見直す、スケジュールを組み直すことも可能だと思います。六中は校舎を外壁塗装しているため、東京大震災が起きなければ、次期計画までは保つのではないのでしょうか。三中の方が老朽劣化が上がっているかもしれません。第1グループ、第2グループに分けた経緯が変わるかもしれないため、あらためて劣化度調査が必要と思われる。 それから、防災新拠点については、武蔵野市地域防災計画があるので、計画案までに、審議会に現在の各中学校の備蓄量、収容人数と、中学校を統合再編するのであれば、その場合のシュミレーションは市民に示した方が良いでしょう。 最後に、桜野小の統合再編検証結果、千川小、大野田小の建て替え時の課題等も、審議会でも審議し、市民に示していただければと思います。 保護者、子ども、教職員、市民、市議、職員と一緒に力を合わせて、より良い学校改築ができることを、心から願っています。</p>	<p>最新の生徒数推計では、第二中と第六中の生徒数の合計が数年間は18学級を超える規模になることが見込まれますが、統合新校を設置する数年後には審議会としてまとめた適正規模(12級以上18学級以下)になるものと考えられます。学校を改築にあたっては、60年以上にわたる長期的な活用を前提に、30年、50年後の子ども人口が大幅に減少するという将来予測を見据え、一時的な動向ではなく、将来にわたって子どもの学びと教員の指導体制を維持できる長期的・持続的な視点での検討が強く求められると考えます。 第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することには、財政面のメリット以上に、多様な集団の中での社会性の育成や、専門教員による組織的な指導体制の確立など、子どもの学びの充実を最優先に考え、中間まとめに記載しました。また、統合新校の開校がより円滑なものとなるよう、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。 教員の切磋琢磨できない状況については、より多くの多様な経験のある教員とのかかわりが重要と考えます。教員は、授業研究や生活指導等、児童生徒や保護者、地域に応じた対応が求められるため、学校における研究・研修の時間は非常に重要であると考えます。令和8年度に改めて劣化度調査を実施するものと認識しています。防災の視点は今後の審議の参考とします。</p>
41	<p>統合されると孫が30分以上かけて学校に通う事になり、部活などで帰りが遅くなると夜は心配です。 学校は統廃合しないでください</p>	<p>no.2の回答をご参照ください。</p>

42	<p>2中6中を両方残して下さい。</p> <p>大規模校が教員にとって負担が大きいことを、都立高校で学年10学級を経験したので実感しています。地域的に武蔵境は今後子どもは増える可能性もあるのではありませんか？増えないとしても今後、日本も学級定員数を減らして教育環境を改善するべきですし、そのときになって新たに学校を作るのは大変です。</p>	<p>子どもの学びを第一に審議を進め、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。今回いただいた意見も踏まえて、今後も審議を進めてまいります。審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。境地域にある第六中の生徒数は増える見込みですが、審議会としてまとめた適正規模には届かない状況が見込まれており、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することで適正規模の学校とすることが望ましいと考えています。なお、1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。</p>
43	<p>小規模校のほうが児童・生徒一人一人の理解がしやすく、対応もしやすい。現在の中学校の人数は把握していないが、少数であればあるほどよいと考え。したがって、併し児童・生徒数が増えるよりも、現状を維持したほうがよいと考える。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。</p>
44	<p>統廃合は、大反対です。</p> <p>私の年から六中が新設されました。当時は振り返っても、画期的なことでした。それぞれの学校に人数が分散されたことで、より丁寧な学習の機会を得られたと思います。</p> <p>少人数での授業形態は、学習効果が上がることは今当たり前の事です。</p> <p>教える側にとっても、きめ細やかな指導が出来ますし、教わる側も教わる時間が多く確保できると思います。</p> <p>私は、中学校に40年以上勤め、第四中学校にも9年勤めました。</p> <p>当時の第四中学校も、市内で一番多い学級数でした。他市から異動して驚いたのは、学校が荒れていました。鼻ピーの子も複数いましたし、子供たちは、バラバラで好き勝手な行動が多く、教員も生活指導に追われ、毎日クタクタでした。</p> <p>挙げ句の果てに、体育館下の倉庫に放火した子も出てきてしまいました。</p> <p>これは一例ですが、学級数が多いと生活面でも子供たちのストレスが溜まり、身近な大人である教員が、個々に寄り添える時間が少なくなると言うことです。</p> <p>多摩地区の学校で、学級数が多いところは私の経験したような事態は多く見られ、反対に少ない学校で生活した子は、学校生活にもゆとりが出て、学習面、生活面でも効果を上げていると聞きます。</p> <p>教員の立場でも、学級数が増えれば、授業時数も増え、その分、教材研究に当てる時間の確保が難しくなります。特に、国語科の負担は何時も多くて大変そうでした。</p> <p>武蔵野の教育を今リードしている第一、第三中学校に、更に遅れをとることとなるでしょう。</p> <p>昭和32年生まれの同級生の皆さん、是非、反対の声を上げて欲しいと思います。</p> <p>どうぞこの声が届きますように祈っております。宜しくお願いします。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。ご意見にあるように、学級数の多い学校、少ない学校のメリット、デメリットは現場の対応次第で良くも悪くもなる可能性があります。学級数の少ない学校のデメリットを改善するための教員の負担があります。特に教員の指導体制確保について、学級数の少ない学校で正規教員が配置されない場合、人材が不足する中で、学校が講師を探す必要が生じます。</p>
45	<p>○校舎のあり方について、次の点を要求します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全確保が最優先されること ・死角がない、柱や棚の角が尖っていない、目線の高さ、廊下の幅、転ぶ・ぶつかる・思わぬところに挟まる等、子どもの様々な特性を充分に考慮してほしい。 ・緊急事態発生時に避難する際に速やかに移動できる構造であること。 ・クランクの多い構造では大人の目が充分に届かない。単純だが従前の箱型が一番動きやすい。 ・他教室の音が聞こえてこないような構造にしてほしい ・各教室で様々な活動が行われる。オープンスペースでは静かさが確保できない場合がある。 ・多様な学び方に対応できるよう、大人数が集まれるスペースが体育館以外にも複数必要であるできれば、学年ごとのスペースがあるとよい。 ・図書館スペースは開放的でない方がよい。 ・十分な広さを確保できないのであれば、オープンスペースにするよさが生かされない。千川小のようなコンセプトでよいのではないか ・校舎だけでなく、校地の自然環境もできるだけ増やしてほしい。その点で小学校と中学校では大きな違いがある。小学校では植物や昆虫などが身近にある必要があり、落ち葉一つも教材になる。栽培や飼育が可能な環境を作してほしい。 <p>○適正規模について</p> <p>1クラスの人数を何人にするかで学級数は変わるので、今回の変更にあまり意味はないのではないかと。学級数が増えると教員数も増えて切確琢磨が可能とのことだが、教育の充実度とは必ずしも一致しないのではないかと。市講師での補充も考えられる。かつて二中が学年2クラスだったことがあったが、生徒たちはとても満足感をもって生活して学校を誇りに思うと話していた。6中と2中は現状維持でそれぞれを改築する案で進めてほしい。</p>	<p>○校舎のあり方について 未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。</p> <p>○適正規模について 子どもの学びを第一に審議を進め、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。今回いただいた意見も踏まえて、今後も審議を進めてまいります。審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。なお、1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。</p>
46	<p>武蔵野市立中学校は全ての学校で通常級が12学級以下です。その規模をいかし、きめ細やかな教育で、落ち着いた学校生活が送れているのではないのでしょうか。また、子どもたちの自主的な活動も進んでいるのではないのでしょうか。</p> <p>582校ある東京都の市立・区立中学校のうち32校しかない18学級以上という大きい規模の学校を、わざわざつくる必要はないと考えます。</p> <p>まして、現在、子どもたちが主体的に取り組む教育活動の成果が出ているという学校をなくし、2校を大規模の1校にすることは、武蔵野市の教育のよさを損なうことにならないのでしょうか。</p> <p>6ページに「教育は学校のみで完結するものではありません。本市の強みである地域の教育力を生かすことで、子どもたちが多様な大人と出会い、多様な生き方に触れることができます。そのために、学校と地域が日常的に交わり、学びと生活がつながる開かれた拠点としての校舎が求められます。」とあります。これは建物の構造だけの話でないと受け止めます。</p> <p>武蔵野市は、地域と学校がつながり、地域の学校、学校とともにあるまちづくりを進め積み重ねてきている市です。「開かれた学校づくり協議会」で、地域とのつながりを生かした教育活動をさらに豊かに進めています。その武蔵野市で、今、二中と六中をなくして、一つの学校にするということは、地域と学校と築いてきたコミュニティ、まちづくりを壊していくことになると考えます。</p> <p>子どもたちが主体的に取り組む教育活動の成果が出ていると教育委員会も評価している学校をなくし、地域と学校が築いてきたコミュニティを壊すことはやめていただきたいです。</p> <p>「多様性を生かし」とあります。多様性がある一人一人の子どもたちが、お互いの違いも認め、また、共感もしあう関係をつくるには、お互いを知ることができる、関われる規模は重要です。自分と同じ面も違う面もある他者と出会い、自分も見つめ直し、ぶつかりながら、嫌だと思ふこともありながらも、自分も他者も含めた自分たちが、それぞれの多様性をいかしあえるにはと考えると、つながり、学級、学校をつくっていくには、大きな規模では、難しい面があります。</p> <p>向き合わない、知らないままの存在が多くなり、印象で流れて集団の意識が形成されてしまう、固定化されたままになってしまうリスクは高くなると考えます。直接関わりがない、よく知らない生徒の情報も別の生徒に伝わっていくような情報環境にいる子どもたちに、コミュニケーションの難しさやしんどさを感じやすくなっている子どもたちに、18学級以上の大きい規模の学校、集団は、なじみにくいと考えます。</p> <p>適正規模を「1校12から18学級」とまとめ、適正規模に合わない六中をどうするかという議論から、二中と六中を合わせて一つの学校にすることが望ましい、とまとめている。</p> <p>しかし、二中と六中を合わせたら、適正規模の18学級をオーバーする学校が新たにできることになる。</p> <p>適正規模に合わないからとの根拠から、学校を統廃合して、適正規模に合わない学校を新たにつくるというのは、整合性がない。</p> <p>20年後には、適正規模の学級数になるというのも、その間の子どもたちのことは、どうするのか。適正規模より少ないのはダメで、多いのは、いいのか。適正規模というものが根拠としては弱いものだという事ではないか。その弱い根拠で、学校をなくす、減らすということをする必要はないと考える。</p> <p>子どもたちを取りまく環境の複雑化もあり、給食のアレルギー対応、また多様な子どもたちの対応で、養護教諭が子どもたちと関わるが増えている。担任やスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携しての業務も増えている。7学級の学校でも18、19学級20学級の学校でも養護教諭は一人である。学校が大きくなれば教育体制がよくなるとはいえない。14学級でも養護教諭1人は大変である。</p> <p>六中の生徒が二中の場所に通うとなると、中には片道五〇分近く通学にかかる生徒が出てくる。自転車通学を認めれば解決するという問題ではない。雨や風、雪でも通学する。毎日の通学の安全性の問題も考えなければならない。現在の通学距離以上を子どもたちに強いる二中と六中の統廃合はやめてほしい。</p>	<p>no.42の回答をご参照ください。</p> <p>また、最新の生徒数推計では、第二中と第六中の生徒数の合計が数年間は18学級を超える規模になることが見込まれますが、統合新校を設置する数年後には審議会としてまとめた適正規模（12級以上18学級以下）になるものと考えられます。学校を改築にあたっては、60年以上にわたる長期的な活用を前提に、30年、50年後の子ども人口が大幅に減少するという将来予測を見据え、一時的な動向ではなく、将来にわたって子どもの学びと教員の指導体制を維持できる長期的・持続的な視点での検討が強く求められると考えます。再編により、学級数を適正規模の学校とすることで、子どもたちの自主的な活動が阻害されることは考えていません。</p> <p>第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、開かれた学校づくり協議会についても新たに設置することになると認識しています。その場合、地域が分断されることなく、より良いコミュニティづくりが円滑に進むよう、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。</p> <p>生徒が多様な人間関係を学べる等の観点も踏まえ、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。人間関係についても、学級数がある程度あるほうがクラス編成で配慮が可能となります。</p> <p>最新の生徒数推計では、第二中と第六中の生徒数の合計が数年間は18学級を超える規模になることが見込まれますが、統合新校を設置する数年後には適正規模なるものと考えられます。学校を改築するうえで、一時的な動向ではなく、20年、30年先を見据えることが重要だと考えます。</p> <p>養護教諭は多様な子どもたちを見取る存在としては大きいですが、子どもへのかかわりは教職員全体で組織的に行うものと考えます。審議会としてまとめた適正規模の学級数ならば、より多くの正規教員の確保ができ、より多くの教員が多様な子どもたちへの配慮ができます。</p> <p>第二中、第六中再編により通学距離が遠くなることへの対応として、自転車通学を認めること、学区の弾力化について、審議会でも意見が出ていました。この他再編により生じるデメリットの改善策について、統合新校の開校がより円滑なものとなるよう、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模が大きくなると教員の数が増えて教育体制が整うと単純に言えないのではないだろうか。生徒数が増えるわけで、分掌や教科など業務によっては、担当しなくてはいけない子どもの数が増えるので、学校が大きくなると教員の負担が増えることもある。 ・また、行事等に取り組むときに、大人数の学校では子どもたちが自主的に動き、全体の活動にしていくには、少ない人数で活動するより、時間がかかる。だが、使える時間は人数に比例して増やすというようにはいかない。子どもたちが試行錯誤して、子ども同士の関係も練り上げるまで待つ時間的余裕がなく、教員が主導になったり、かなり手を出してしまったり、ルールで先にしばってしまったりになりやすい。12学級以下の学校だからこそ、子どもたちの自主性を大切にじっくり取り組むことができる武蔵野市の中学校のよさを大切にして学校を減らし、統合して大きな学校をつくるのではないようにと望みます。 ・審議会の中で、学区の見直しで学級数の調整ができるのではという意見が出ていたように思うが、学校を減らすのではなく、適正規模数を下回る点について、学区の部分的な見直しという方向では考えられないのか。 	<p>ご意見いただいたように、学級数が多くなることによるデメリットがあると考えます。一方で学級数が少ないことによるデメリットもありますが、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えており、二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。また、適正規模を下回る学校への対応として、学区区域を見直すことについては、根本的な解決にはならないと考えます。</p>
47	<p>小規模の中学校に子どもを入学させたくて、六中エリアに移り住みました。長男と次男がお世話になり、小規模ならではの先生と生徒の距離に満足しております。唯一の不満は、35人学級がまだ実現されていないことですが、これは数年後には実現されると理解しております。</p> <p>一方で、中学生の体格で35人をあの1教室に詰め込むのは物理的に「狭い」と思うのが正直なところであり、精神的にも思春期の子どもたちに丁寧に寄り添うためにも30人学級の実現を期待しております。「六中で30人学級が実現され、先生と生徒が皆、それぞれのことをよく知っている。」という状況が私の理想です。</p> <p>私のこのような想いと、中間まとめの「一校12学級～18学級が相応しい」という方針の方向性が合っているとは今の時点では思えません。六中には、小規模の良さを活かした改築をして欲しいと考えております。</p>	no.45の回答をご参照ください。
48	<p>小学校での経験では、1学年が3クラス程度の方が、学年での共有がしやすいと感じた。4クラス以上になると、全体で集まることも難しくなってくるため、わざわざ統合する必要はないと感じる。</p> <p>体育館を使用しなくても済む、式などに使えるホールがあると良い。</p> <p>不登校の児童が気軽に登校したり、相談できたりするような場所があると望ましい。</p> <p>各校に託児所が設置されていると良い。</p>	no.1の回答をご参照ください。未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。
	<p>意見1 現計画の中では第2グループは「計画改定時に改築順序を決定する」となっています。今計画改定中なのですが、改築順序を決定しないのでしょうか。現行計画無視？</p> <p>意見2 審議会の中で事務局より「第1グループの4つの学校のうち中学校は2校という形になってきますので、こここのところを具体的に今後は話していくということになっていくと思います。」と発言があり、適正規模・適正配置について第1グループと第2グループのうち第1グループについて検討することになりました。2つ問題があります。1点目はデタラメな絞り込みをしていること、2つ目は事務局が判断しているということです。</p> <p>第1グループと第2グループは現行学校施設整備基本計画で改築順番を決めるために建替え前の老朽度で学校をグループ別けしたものです。適正配置・適正規模の検討は改築後の頑丈な学校がどう配置されるかを検討するものです。老朽化度（グループ）で適正配置が決まるなんてまったく滑稽な話です。デタラメです。配置が決まったらそれをどの順番で作るとしなさいといけません。こんなデタラメが「中間のまとめ」に入り込んで、信頼度を著しく下げている。</p> <p>結論ありきで作ったストーリーだったとしても、せめて論理的につじつまが合う体裁にしておいたほうがよくないか。</p> <p>意見3 中学校に適正規模が大事なのであれば小学校にも大事。なぜなら文科省の適正規模は小学校にあるのであって、中学校はそれに準拠してただけだから。審議会でも小学校の配置について議論しないのは筋が通らない。</p> <p>小学校についても児童数の変化は中学校同様にある。小学校から中学校に進学するので当然です。小学校の適正配置・適正規模も中学校と同様に対応するのが自然な流れのところ事務局より「今回のところでは小学校は対象外という形で」と発言があり不自然な方向性が作られました。小学校が対象外なのは事務局が決めたことで、科学的に検討が必要ないことが示されたわけではないということは「中間のまとめ」に正当性がない大事な点です。</p> <p>意見4 令和6年7月末から8月にかけて行われた「みんなで語ろう！武蔵野市の未来の学校づくりワークショップ」の結果は審議会に反映されているでしょうか。私が参加した二中の回では少人数学級が複数出ていたように記憶しています。報告書にも複数の会場で少人数学級への期待が載っていました。3/28の説明会でも少人数学級への要望を出しているという事務局からのコメントもあり、未来の学校では少人数学級の可能性を受け止められる（見据えた）学校はシミュレーションしておくべきだったのではないのでしょうか。</p> <p>意見5 以前、武蔵野市で小中一貫校（義務教育学校）を検討したときはそれだけで何年もかけてあらゆる面から検討してきた経緯があります。当時の教育長は今小中一貫をしなければいざ統廃合を検討することになる、と言っていました。その意図をくめば、義務教育学校は縦の統廃合、今検討している適正配置・適正規模は横の統廃合と整理できます。それほど大きな、しかも長期スパンの案件なのだから、学校施設整備計画の中で検討するのではなく、単独でじっくり検討することなのではないのでしょうか。</p> <p>意見6 順番が逆、未来の学校を考えてから、それに適した規模（？）を考えるのでは？</p> <p>意見7 既に一斉授業の学校は終わった。学校は変わらないといけない。今までの評価基準や価値観で学校規模を考えることは意味がない。令和の日本型教育と同様に、今までとは違う想像ができない未来がやってくることに備えられる校舎とは何か、未来を見据えるとはそういうことではないか。</p> <p>意見8 先日140人の卒業生の中学校卒業式に参列したがこれが限界。小学校だが普通級の指導に入った際も、子どもたちはベルトコンベアで大量に流されてくるかのように、体験したアライバイを作っているかのようなようだった。人数は子どもの学習権を保障できる数に収めるべきだ。多人数は切磋琢磨ではなく芋洗ひ。一人ひとりが安心して通い成長できる環境を作るべきだ。一斉授業が終わった令和以降は30人学級、25人学級の未来を見据えて学校を設計すべき。</p> <p>意見9 運動会に賑わいを求めるのであれば、学校間対抗運動会にすればよい。めっちゃ盛り上がる。地元で優勝バレードなんかしたら街を挙げて盛り上がるに違いない。</p> <p>意見10 部活はもう学校の仕事ではない。</p> <p>意見11 審議会が適正とする1学年6学級210人を受け入れられるセカンドの滞在先はあるのか。</p> <p>意見12 文科省「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議では、「当初予定していた学校施設改修のタイミングにあわせることだけを狙いとして短期間で学校の適正規模・適正配置の検討を行うことは本末転倒であり、望ましいものではない」として、本市のことを観ながら言っているのかと思った。</p> <p>意見13 審議会では適正規模が12～18学級という科学的根拠が示されてこなかった。</p> <p>意見14 小規模校の教員人事について問題があるという声があるが、現役教員に聞いたところ、どんな規模でもそれなりに問題はあるとのこと。それよりも、教員の配置環境の改善を国や都に求めるべきだし、こんな問題が分かりきっていることを今後何十年と続けていくとしたら日本は終わってる。委員長の初回スライドには、子どもたちには「自分で『未来』を切り拓く力」を身に付けさせる、とあるのに、教育委員会・教職員は未来を切り拓かないのか。</p> <p>意見15 公立学校は地域のもので、教職員や教育委員会のものではない。大空小学校元校長の木村泰子さんが「地域住民は『土』、校長は『風』」というように、彼らは一時期それに関わるだけで通り過ぎていく。地域が学校を彼らに丸投げするからこんな計画を考えつく。地域は学校と連携して地域の子どもたちを育てていかないとけない。</p> <p>意見16 審議会の視点に教育面でも足りないところがあるが、それ以外に第一ではないかもしれないが、コミュニティや防災という面もある。特にコミュニティはその街のソーシャルキャピタルに直結するので子どもたちへの育つ環境にも影響する。コミュニティはウェルビーイングを高めるために重要な要素です。</p> <p>意見17 桜野小がマンモスで教育の機会をあきらめることが多々あった。できないことだらけ。少ないにこしたことはない。</p> <p>意見18 スペースがあるなら中学校も自校式給食にはいかがか。</p> <p>意見19 審議会では学級数のシミュレーションをしていたが中間のまとめには記載しないのか。</p> <p>意見20 3/28の説明会で少人数学級については要望を出していると説明があったが、要望していることについても未来を見据えてシミュレーションをしないのか。30人学級、25人学級のシミュレーションも載せるべき。ちなみに35人学級の場合、第三・第五がワースト、第二・第六がそれに続き4つの学校が適正規模から外れる。二六中については合併したらそれはそれで大きすぎて適正規模から外れる。30人学級の場合、第三・第五のみが適正規模から外れる。ただし、第四を半分にして第三と第五に加えるとすべて適正規模にできる。おすすめはしないが。</p> <p>意見21 学級規模は文科省が決めることになっていますが、実際には各自治体、多くの場合は都道府県レベルで独自の加配制度を用いて学級規模を決めているところがあります。中には30人以下学級の実現に関する意見書を提出した自治体や政治団体もあります。武蔵野市も少人数学級を望むのであれば、その準備をして東京都へ強く要望するべきです。</p>	<p>回答1 第2グループの改築順については、中間まとめP.28記載のとおり、令和8年度の審議会でも審議する予定です。</p> <p>回答2 学校の改築順は、現行の学校施設整備基本計画P.29にあるように「施設の建築年数を基本に、必要に応じ施設の劣化状況なども総合的に考慮」して決められているものと認識しています。そのため、現行の計画で定められた改築順に基づき、第二期計画の計画期間中に改築を予定している第二中、第六中について、最新の生徒数推計をもとに改築の方策を検討することは合理的であると考えます。なお、現行計画策定から時間が経っているため、改めて劣化度調査を実施し、改築順の精査をする必要があると考えます。</p> <p>回答3 審議会としてまとめた適正規模はすべての小中学校を対象とするものですが、本審議会への諮問文の内容として、「全市的な視点から中学校の適正な数（中略）を検討」とされており、小学校は対象外です。なお、諮問文の内容は、市の最上位計画である武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画の内容に基づくものと認識しています。</p> <p>回答4 令和6年度に武蔵野市教育委員会が実施したワークショップの結果については、第1回審議会でも事務局から報告を受けています。1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。今後の見直しは未定であり、不確定な要素で検討することはできません。</p> <p>回答5 行政計画の策定は、一般的に1年間で実施することが多いですが、第二期計画は、2年間かけて審議をするものです。また、審議会の期間中にも、各審議会後に審議経過をまとめたリーフレットを作成し、児童生徒、未就学児保護者への配布、市ホームページでの掲載、説明会の開催を教育委員会が実施しており、子ども、保護者、地域、教員にとってより良い計画になるよう、策定作業が進められているものと認識しています。</p> <p>回答6 審議会としてまとめた適正規模に関する審議については、子どもの学び、教員の指導体制の教育面について意見交換される中で、未来の学校に関する内容も含む審議がされています。</p> <p>回答7 未来を見据えた校舎のあり方については、学識経験者である会長、副会長から国の施策、他自治体事例を紹介しました。未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。</p> <p>回答8 子どもの学びを第一に、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。</p> <p>回答9 以前、各地区で行われていた連合運動会が、時数の確保や、連合行事を行うための連絡調整をする教員の負担等を鑑み、今はなくなってきていると聞いています。教員の働き方改革とともに、その労力（安全の確保や授業計画の調整、計画準備時間等）を考えると学校行事で行うのは難しいと考えます。</p> <p>回答10 武蔵野市としても部活動の地域連携を推進しているものと認識しています。</p> <p>回答11 セカンドスクールの滞在先は、学校がその規模数を踏まえたうえで、持続可能な場所を選定し、実施しているものと認識しています。</p> <p>回答12 子どもの学びを第一に、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。</p> <p>回答13 審議会としてまとめた適正規模を12学級以上18学級以下としている一つの根拠としては、すべての教科で東京都教育委員会から正規教員が配置される規模が、おおそ12学級以上18学級以下のためです。適正規模については、子どもの学びを第一に審議した結果です。</p> <p>回答14 no.1の回答をご参照ください。</p>

意見22 OECD諸国では、小学校の平均学級規模は21人で、チリ、イスラエル、日本（27人）、英国が特に多いです。中学校では、OECD諸国全体で平均学級規模は23人で、国によって大きく異なり、OECD諸国やパートナー国では20人未満であるのに対し日本は32人です。EUの平均はさらに少ないです。武蔵野市では2025年5月1日時点で、小学校平均が29.6人、中学校平均が33.4人です。OCEDのデータは「OECD Education at a Glance」（2025年版）から引用しています。

意見23 OECDでは教員の働き方に関する調査もあり、日本の教員はOECD平均より労働時間は週あたり14時間長く、その割には授業時間は短く、学校運営業務・事務事業が長く、課外活動が4時間も長いという結果になっています。未来の役割・働き方を見据える必要があります。OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2024報告書より引用しています。

意見24 2022年には 国連・障害者権利委員会による日本への勧告がありました。その中ではインクルーシブ教育の推進が言及されています。研究者からは「既存の学校の在り方を見直さず、必要な工夫もされずに、同じ場に放り込まれる（ダンピング）状態は、むしろ差別を助長する可能性がある」と学校のあり方は今のままではいけないと指摘されています。

意見25 2024年度の不登校者数は35万3970人、そのうち中学校が21万6266人(6.8%)。自殺者数は中学生で163人（暫定値）となっている。中学生が死んでいる。総務省の公共施設等総合管理計画で床面積減らせ、財政的に楽になる、その前に自殺者が出ない安心して通える学校を作ろう。

意見26 p.6 多様性と言いながら分離教育を進めている。「共に学びあい・育ちあう教育環境が求められており……」という課題をどんな校舎が解決できるのか。今の適正規模はそういうことも議論されていない。

意見27 p.9 私立国立中学校進学率

市立ではなく私立へ進学する中学生が4割を越えている。高い学費を払ってでも近い市立よりも速い私立を選ぶ家庭が4割もいる状態に市立学校は問題はないと言えるか。4割が行きたくないと思ひ、地域コミュニティにも影響が出る。

意見28 p.10 第二中学校の生徒数推計はR21から上昇に転じている。桜野小がR18から上昇に転じて上昇し続けているということは第二中学校のR27以降も上昇することになる。

意見29 p.10 R9-R14 は第一中学校の人数がR7と比べて150人近く増える。その間、井之頭小が仮校舎として第一中学校内で過ごすが大丈夫か。下手したら合計1000人規模になってしまわないか。五中+五小の750人規模も心配。

意見30 p.10 ○年後は○%の誤差を含むはずで、そういう推計誤差が示されていない。20年、30年、60年先の誤差はどうなるのか。

意見31 p.10 推計から評価する場合ワーストケースを見ることが大事。推計誤差が見えないと評価できない。

意見32 p.11 財政シミュレーションの図は長期計画でも見られるがいつも似たような感じがする。例えば五長調では令和13年には基金残高を市債残高が越えることになっているが、中間のまとめでは令和24年くらいになっている。財政シミュレーションを作られるたびに後倒しになっている。もう、またかという感想しかない。ちなみに五長調では令和22年に基金が枯渇する予測だったが中間のまとめでは絶好調のようだ。

意見33 p.12 建設費は増大するが税収も増大する。

物価が上がると所得も上がるし税収も上がる。市のWEBサイトから予算歳入合計を調べるとH25からR8で1.63倍になっている。

R8 94,227,000、R7 88,028,000、R6 81,523,000、R5 72,922,000、R4 70,586,000、R3 69,539,000、R2 67,663,000

H31 67,966,000、H30 63,558,000、H29 63,548,000、H28 66,766,000、H27 62,878,000、H26 60,260,000、H25 57,790,000

意見34 p.14 教育活動において多様な人材と関わりが求められる中で……の部分に分かりづらい。関わるのは子どもたちなのか、人材とは子どもなのか大人なのか。いずれにしても子どもたちは多様性の中で育つべきで、そのためには人数を増やすのではなく多様性を豊かにしないとけなくて分離教育を解消しないのは本末転倒。

意見35 p.14 「適正規模だからこそ、できることがあるのではないか」○○だからこそ……○○のところは何を入れても成り立つ。まったく意味のない文。

意見36 p.14 「人間関係に配慮して学級編制」トラブった子を別のクラスにすることだと思ひますが、まずはトラブルを解決できないのが残念なのと、これは適正規模ではなく単学級のこと。

意見37 p.14 「特別な配慮を要する……」小規模の得意とするところですね。

意見38 p.14 先生に多様性があることはいいことだが、所詮先生という狭いカテゴリ。地域と教育活動を連携し街の多様な人と関わるのが大事。地域連携できるフットワークの軽い集団になるほうがいい。

意見39 p.16 義務教育学校は過疎地では有効なことは知られているが武蔵野市に置いては論外。意見集約表にもおかしなことが書いてある。9年間を通して、系統的な教育活動ができるのは小学校・中学校別でも同じと前教育部長が語っています。文科省のカリキュラムはそうになっている。都立小中一貫校のような先取り授業をやっているところはありますが武蔵野市はやらないと言っていた。魅力的な付加価値云々は意味不明。新規の学校も数十年すれば目新しくもなんともない。

意見40 統廃合で50億円コスト削減ができるとあるが、空いた土地利用で50億以上かかるのでは？空いた土地利用を考えてないと言っても空いた土地を利用しないことはない。空き地ができるのであれば、学びの多様な化学校を作って欲しい。旧桜堤の跡地で予定されていたナイター設備付きのスポーツ広場の要望も出てきそう。

意見41 六中とふるさと歴史館を複合施設としたら相乗効果があるのではないか。コラボレーションも期待できるし、二中でもいいです。というか取り合いになるかも。

意見42 この中間のまとめは正直わくわくする内容ではなくつまらない。未来の学校に期待が持てない。

回答15

子どもの学びを第一に、子ども、教職員、保護者、地域の意見や専門家の知見を踏まえ、建築面や財政面など様々な観点も含めて審議されています。

回答16

ご意見いただいたように、学校には地域コミュニティ、防災の視点が重要と考えます。

回答17

子どもの学びを第一に、教員の指導体制確保等の観点から、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。

回答18

ご意見として承ります。

回答19

児童生徒数について、中間まとめに児童生徒数推計を掲載しており、児童生徒数推計に基づく学級数については、紙面の都合から記載していません。

回答20

35人よりも児童生徒数の少ない学級に対応した教員配置について、教育長から要望を出していますが、1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。今後の見直しは未定であり、不確定な要素で検討することはできません。

回答21

東京都教育委員会は中学校の1学級あたりの生徒数を35人とする方針を示しており、教員数は学級数に応じて決まります。1学級あたりの児童生徒数を35人未満とすると、都の基準とは異なるため、不足する教員については、市で独自に採用、配置する必要が生じます。他区で35人未満とした例があるが、区で採用した教員は都採用の教員ではないため、都教育委員会が採用する教員になるためには、別途採用試験を受ける必要が生じ、問題になった事例があるため、1学級あたりの児童生徒数を35人未満とすることは、市としても判断が難しいものと認識しています。

回答22

1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。

回答23

ご意見の通り、教員の働き方については今後も検討していきます。課外活動が多いという実態へのアプローチとしては、部活動の地域連携を検討しているものと認識しています。

回答24

障害等の有無にかかわらず共に学ぶというインクルーシブ教育の理念を実現するため、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じることを目指した連続性のある多様な学びの場を用意し、通常学級と特別支援学級、都立特別支援学校との交流及び共同学習を推進するインクルーシブ教育システムの充実を図ることが重要であると認識しています。

回答25

ご意見として承ります。

回答26

子ども、教員にとって多様性は重要な観点だと考えているため、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することとしています。また、改築が完了した第一中や第五中、今後改築を控える第五小や井之頭小では、学年commonsやオープンスペースを設置することで、共に学び合い、育ち合う教育環境整備が進められているものと認識しています。未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。

回答27

子どもの学びを第一に、未来を見据えた学校をつくることは、選ばれる公立学校という観点でも重要と考えます。

回答28

最新の生徒数推計からは、R27年度以降も第二中学校生徒数は増加する可能性はありますが、審議会としてまとめた適正規模未満の学校となる可能性が高く、子どもの学び、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から課題が残るものと認識しています。

回答29

井之頭小の改築期間である令和8～10年度は、第一中生徒、井之頭小児童が第一中敷地内で一緒に過ごしますが、第一中、井之頭小が連携し、休み時間をずらす等の対応をしているものと認識しています。

回答30

児童生徒数推計において、誤差を見込むことは困難です。

回答31

ご意見として承ります。

回答32

財政シミュレーションについては、公共施設の改修、建て替えの時期、コストを都度精査しているものと認識しています。なお、市では令和7年度末に財政シミュレーションを見直したため、答申案の中で最新のものに更新する予定です。

回答33

学校改築事業以外の公共施設のコストが増大することが見込まれます。楽観視することなく、学校改築事業は財政面についても考慮しながら事業を進める必要があると考えます。

回答34

ご意見いただいた箇所は、「『子どもたちが受ける』教育活動において『教員・子ども等の』多様な人材との関わりが求められる中で」という主旨で記載しています。また、子どもたちを多様性の中で育てるためには、ある程度的人数、学級数が必要であると考えており、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。

回答35

ご意見として承ります。

		<p>回答36 学校として、トラブルが発生しないように、学校、家庭と連携するのは当然です。それでもトラブルの発生を100%防げるとは限らないため、トラブルが発生してしまったことを想定して、クラス編成で配慮できるようにするべきと考えます。</p> <p>回答37 ご意見として承ります。</p> <p>回答38 ご意見いただいたように、教員の指導体制は子どもの学びに対して重要な要素と考えます。地域との連携なしに学校運営は成り立たないものと考えます。</p> <p>回答39 ご意見として承ります。</p> <p>回答40 ご意見として承ります。</p> <p>回答41 学校と学校以外の用途との複合化については、現行の学校施設整備基本計画において、「学校施設の複合化については、更新時の物理的余裕および地域性を鑑み、学校ごとに検討を行います。検討に当たっては、質の高い学校教育の実施、という施設本来の目的を踏まえたうえで、学校教育との親和性および教育効果の観点から行い、学校と管理運営を完全に分離し、学校（管理職）への負担がかからないことを前提とします。また、将来施設に余裕が発生した際に、さらなる複合化に対応できるよう、スケルトンイン・インフィルの設計を取り入れます。」と記載されております。</p> <p>回答42 ご意見として承ります。</p>
	<p>意見1: 「中間のまとめ」全体について 「中間のまとめ」には審議会での意見がたくさん載っているが、根拠に欠ける希望的観測のような意見も、さも参考に値するかのようになっているのは誠実な姿勢ではない。今までの審議書を傍聴したり議事録を読むことなく「中間のまとめ」だけを読んだ人のミスリードを期待しているのではないかと事務局は嘘はついていないが、説明していないことや紹介していないこともたくさんある。希望的観測のような意見も載せるのであれば、その意見の根拠・実現可能性・エビデンスなどの有無を補足すべきだ。それがないと審議会はただの事務局の承認機関になってしまう。</p> <p>意見2: p.1「計画策定の背景・目的」について 説明動画で「（審議委員には）日頃から地域でこどもたちに関わっている方を中心にしています」と説明しているが、今回の「中間まとめ」の“結論”とされている「第二中・第六中を再編し統合新設校を設置することが望ましい」という案を出すにあたり審議委員に当事者が欠けているのは問題だ。PTA代表は二小・桜野小・二中がない。開かれは六中・二小・境南小・桜野小がない。青少協は第二地区・桜野地区がない。公募市民には境・桜堤・境南地区の方がいない。学校関係者には二中・六中・二小・境南小・桜野小の関係者が誰も含まれていない。PTA・開かれ・青少協に各校それぞれ1名ずつつればいいと事務局は思っているかもしれないが、地域にとっては学校が一つ消されるかもしれない大問題で、どの区分にも二中・六中・二小・境南小・桜野小を入れるべきだ。二小到いては全く蚊帳の外である。「こどもの学びを第一に」「未来における教育を見据えた校舎のあり方」を考えるのであれば、この“欠けている当事者”も審議会メンバーに加えるべきだ。今の審議会メンバーのままで“公平な審議”と言い張るのなら、地域は「はいそうですか」と飲みこめる訳がない。</p> <p>意見3: p.1「計画策定の背景・目的」について 「こどもの学びを第一に」「未来における教育を見据えた校舎のあり方」を考えるのは当然として、学校施設は地域の避難所として地域防災の要であるということを忘れていないだろうか。説明動画で「（審議委員には）防災に詳しい方が加わっていることも特徴です」と説明しているが、その方はある区分の代表として参加しているだけで、地域防災に関わる方々の代表として参加している訳ではない。「武蔵野市地域防災計画」では避難所・避難所救護所としてすべての学校施設が体制に組み込まれているのだから、多大なる影響を受ける当事者である境地域・桜野地域の避難所運営組織の代表が、“地域の防災を担う組織の代表として”参加していないのは大問題だ。もし「学校統廃合がおこなわれた場合に起こりうる地域防災への影響」の洗い出しができないのではないかと。また、もしも学校統廃合が実施され境地域の市立学校が二小だけになってしまった場合、同じく「武蔵野市地域防災計画」で避難所・避難所救護所として体制に組み込まれている都立武蔵高校にも多くの負荷がかかることになるが、武蔵野市は都立武蔵高校との連携がとれているようには見えない。「武蔵野市地域防災計画」に学校名は並んでいるが、今まで市の総合防災訓練に都立学校が参加していた覚えはない。そんな状況で六中を無くし、境1・3丁目住民を避難所難民にさせて教育部は責任をとれるのか？もし境1・3丁目住民が二小や五中に避難した場合収容人数がパンクする恐れはないのか？そもそも被災時に速くまで行けるのか？</p> <p>意見4: p.1「計画策定の背景・目的」について 学校避難所を運営する避難所運営組織と協力して「おもいやりルーム」開設を担うことになっている西部コミセン・桜堤コミセンも、二中・六中問題から蚊帳の外におかれている。とりわけ西部コミセンは発災時に二小・六中の避難所・避難所救護所と連携するよう担当課からは伝えられているのにこの扱いだ。</p> <p>意見5: p.13【校舎のあり方に関する審議会からの提案】について 「学校は災害時の避難所にもなるので、さまざまな状況を想定してつくる必要がある。」のはその通り。それでは学校の数を減らしたら避難所も減るといふ事についてどうお考えか？</p> <p>意見6: p.14「(5)市立集学校の敷地状況・市の財政状況について（第2回審議会）」について 市の財政状況について財政部長である委員の説明が書いてあるが、その後の第4回審議会において同じ委員が「今の校数で建てたらとって武蔵野市の財政がすぐどういかなるわけではない」と発言している事も（その後、財政面を考えて今の校数での建て替えに否定的な意見になったとしても）、“今の校数で建て替えることは可能”だという重要な情報なので、こちらも掲載しないとフェアではない。</p> <p>意見7: p.14「(6)小中学校の適正規模について（第2～3回審議会）」について 「学級数が少ないことにより、（中略）クラス同士、生徒同士、教員同士が切磋琢磨する教育活動がしにくい課題が」とあるが、切磋琢磨する／しない・できる／できない は人数の問題ではない。二人でも、別の場所にいる誰とでも、知らない相手とでも切磋琢磨はできる。なんなら今時オンライン上でも切磋琢磨は可能。何を目的にどう切磋琢磨するのかという個人の問題。まさか“おしくらまんじゅう”のように同じタイミングで物理的にぶつかり合うのが切磋琢磨だとは思っていないか？</p> <p>意見8: p.14「(6)小中学校の適正規模について（第2～3回審議会）」について 「20年以上を見据えて、子どもの学びを第一に審議を重ねました」とあるが、どうしてその結果である【適正規模に関する審議のまとめ】が「小中学校の適正規模については『1校12～18学級』」になるのがわからない。今年度より中学1年が35人学級になるなど、文科省は学級規模はほとんど少なくしていく動きを見せている。20年後、もし学級規模が諸外国のように20名程度とされた場合、小中学校の適正規模が「1校12～18学級」では、少子化が進んでいたとしても学校が足りなくなるのではないかと？</p> <p>意見9: p.14【適正規模に関する審議のまとめ】について 「審議会としては（中略）とすることにまとまりました。」とあるが、審議会として委員の採決をした結果のまとめなのか？賛否の内訳はどこを調べたらわかるのか？</p> <p>意見10: p.14【適正規模に関する審議のまとめ】について 「小中学校の適正規模については『1校12～18学級』」「（小学校：1学年2～3学級、中学校：1学年4～6学級）」とあるが、なぜ中学校の学級規模が突然小学校の倍に設定されるのか？学習面だけでも、少人数のほうが効果が得られやすいと考えるが？（塾だって少人数指導が売りにしている）</p> <p>意見11: p.14【適正規模に関する審議のまとめ】について 「小中学校の適正規模については『1校12～18学級』」「（小学校：1学年2～3学級、中学校：1学年4～6学級）」とあるが、小学校は桜野小のように適正規模ぶつぎりの学校が複数あると思うが、そのような学校についてはいつごろ「学校の規模を是正」するのか。規模を是正せず適切な教育活動を保証できるのか？</p>	<p>回答1 審議会は、学識経験者、市立小中学校校長、PTA会長、地域、公募市民、行政職員など様々な立場の方で構成されており、審議会委員から出された意見を尊重し、紙面の都合もあり全てではありませんが、中間まとめにできる限り載せています。</p> <p>回答2 本審議会では、「全市的な視点から見た中学校の適正な数」「未来における教育を見据えた校舎のあり方」の2点が主要論点のため、全市的に選任したものと認識しています。なお、PTA会長、青少年問題協議会については、各団体からの推薦に基づき選任したものと認識しています。</p> <p>回答3 第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、現時点で第六中を避難所としている方の避難所をどこに設定するか検討することになりますが、第二小、境南小、桜野小、統合新校及び武蔵高校等から近い学校を避難所とするものと認識しています。なお、第二中と第六中を再編する場合、桜堤調理場や浄水場が近接し、地域防災の拠点になり得ると審議会でも意見が出されていました。</p> <p>回答4 第二中と第六中を再編し、統合新校を設置するという方策は、審議会として中間まとめに初めて記載した段階であり、教育委員会及び防災課としては、諮問中の案件について、各種団体と調整することは難しいものと認識しています。</p> <p>回答5 第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、現時点で第六中を避難所としている方の避難所をどこに設定するかが課題となるが、第二小、境南小、桜野小、統合新校及び武蔵高校等から近い学校を避難所とするものと認識しています。</p> <p>回答6 ご意見として承ります。</p> <p>回答7 ご意見いただいたように、二人でも、別の場所にいる誰とでも、知らない相手とでも切磋琢磨はできますが、同じ建物内の多様な生徒、教員がいる場合の方が、切磋琢磨がしやすいと考えます。</p> <p>回答8 多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えています。1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。今後の見通しは未定であり、不確定な要素で検討することはできません。</p> <p>回答9 適正規模を12学級以上18学級以下とすることについて、子どもの学びを第一に、学識経験者、市立小中学校校長、PTA会長、地域、公募市民、行政職員など様々な立場の方からの意見をもとに、審議会でも審議した結果まとまったものであり、採決はとっておりません。なお、審議会の内容は、議事録で確認できます。</p> <p>回答10 子どもの学びを第一に、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下（小学校：1学年2～3学級、中学校：1学年4～6学級）を適正規模とすることにまとまりました。塾が売りにしている少人数指導は、学校に置き換えると1学級当たりの児童生徒数が少ないことを指しますが、1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。</p> <p>回答11 学級数が適正規模を超えている学校への対応についてですが、学校を建て替える直近の学校施設整備基本計画の改訂の際に、児童生徒数推計を実施し、審議会としてまとめた適正規模の範囲外となる場合に必要なる方策を検討するものと認識しています。</p> <p>回答12 多様な人との関わりとは、多くの生徒同士、多くの生徒と教員の関わりを指しています。また、ご意見いただいたように、多様であることを認め合う雰囲気は重要です。</p> <p>回答13 本バリエーションコメント募集において、意見を聞いています。なお、教育委員会が令和6年度に中学生生徒を対象に実施したスクールミーティングでは、「学級数が多いと色々な人と関わるため、多様な視点を持てる」という意見があったものと認識しています。</p> <p>回答14 ご意見として承ります。</p> <p>回答15 1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。</p> <p>回答16 ご意見いただいたように、学級数と教員数は連動して増えるため、学級数が多い学校の場合、児童生徒、保護者への対応も増えることになりますが、教員同士連携しながら対応することが可能です。また、同じ教科に複数教員がいることで授業の進め方等を検討することが可能です。</p> <p>回答17 小規模校の場合、働く時数が少ない学校は敬遠されやすいため、講師が探しにくくなること等、教員の確保に課題があります。学級数が増えれば、正規教員が増えるので、例えば講師の手を借りたとしても校務分掌等、学校の教育活動にかかわる実数は増えると考えます。</p>

意見12:

p.14「審議会で出された主な意見①教育面（子ども）」について

「多様な人との関わりの機会が多い方が、学びも発展しやすく、行事の活気も出やすい。」とあるが、「多様な人との関わり」とは何を指すのか。人はそもそも多様であり、多様であることを認め合う雰囲気こそが重要なのではないかと。

意見13:

p.14「審議会で出された主な意見①教育面（子ども）」について

「多様な人との関わりの機会が多い方が、学びも発展しやすく、行事の活気も出やすい。」とあるが、審議会で大規模校を肯定する意見としてこの意見が出ていた。だとしたら、小規模校は「多様な人との関わりの機会が乏しく、学びも発展しにくく、行事の活気が出にくい」のだろうか？ぜひ小規模校に通学している児童・生徒・保護者のみなさんに意見をお聴きしたいです。

意見14:

p.14「審議会で出された主な意見①教育面（子ども）」について

「適正規模の学校だからこそ、できることがあるのではないかと。」とあるが、具体例を示せないのであれば「主な意見」に記載するべきではない。根拠なく適正規模を肯定しているだけの印象操作だ。

意見15:

p.14「審議会で出された主な意見①教育面（子ども）」について

「人間関係に配慮した学級編成もできるような学級数は多い方がよい。」とあり一理ある反面、箱（校舎）のゆとりが確保されていない状態で学級数を増やすと校舎内の人口密度が高くなり、よい学習環境になるとは思えない。だったら統合してまで児童生徒数を増やして学級数を増やすのではなく、児童生徒数はそのままで少人数の学級編成にすれば学級数がふえて人間関係に配慮しやすくなり、少人数なので教員の目もゆき届きやすくなるのではないかと。

意見16:

p.14「審議会で出された主な意見①教育面（教員）」について

「教員は学級数に応じて配置される。教員が互いに切磋琢磨、フォローしつつ、教材研究の時間や研修機会も得やすいよう、学級数（教員数）は多い方がよい。」とあるが、教員数が増えたとて学級数も比例して増えているのだとしたら児童・生徒・保護者への対応も比例して増えるのではないだろうか。その場合、思い描くようなゆとりは生まれにくいのではないかと。また、切磋琢磨は人数とは関係ない。

意見17:

p.14「審議会で出された主な意見①教育面（教員）」について

「講師が教えているだけでよいのかと感じていた。中学校はある程度の学級数（教員数）が必要。」とある。これは審議会のなかで「学級数に応じて教員が配置される」と話と「休職だか成り手不足だか必要な教員数が確保できず講師の手を借りている（それがたまたま小規模の六中だった）」話とがごっちゃになった意見（感想）だったと思う。学級数が増えれば配置される教員も増えるが、学級数が増えることによって人繰り・教室繰りが難しくなり時間割が組みにくくなって、結局講師の手を借りなければいけない事は変わらないのではないかと？

意見18:

p.14「審議会で出された主な意見③財政面」について

「物価高騰も考慮し、よい学校をつくることと持続可能な財政運営の両立を考える必要がある。」とあるが、そもそも五中・一中のような改築を語る場合ではないのではないかと？今ある学校をしっかりと修繕し長寿命化しつつ、物価高騰の天井が見えるまで改築自体を止めたほうがよい。

意見19:

p.14「審議会で出された主な意見③財政面」について

「選択と集中の投資で、魅力のある学校づくりを進めたい。」とあるが、教育に持ち込んでよい考えではないのではないかと。現に国立大学ではあまり良い結果を生んでいないように思う（研究者の海外の大学・研究所への移籍など）。市立学校で「選択と集中の投資」をして良い結果を出す自信があるのか？

意見20:

p.14「審議会で出された主な意見③財政面」について

ぜひ【参考】に文科省「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議の「議論のまとめ案」で「また、学校の適正規模・適正配置の検討を行うに当たっては、学校施設の老朽化の程度や学校施設改修のタイミングを踏まえる必要がある。学校を統廃合する場合、既存の校舎を改修することが考えられるが、元々予定していた校舎の改修に加えて繰り返し工事を行うなどして過度の財政負担が生じないようにするなど、統廃合のスケジュールを検討する際に学校施設の老朽化の程度や学校施設改修のタイミングは重要な観点となる。この際、当初予定していた学校施設改修のタイミングにあわせることだけを狙いとして短期間で学校の適正規模・適正配置の検討を行うことは本末転倒であり、望ましいものではない。このような観点を踏まえて追記を充実することが適切である。」と指摘されていることも載せてほしい。また、審議会の委員にも共有してほしい。

意見21:

p.15「(7)適正規模を下回る中学校に対する方策について（第4～5回審議会）」について

「第3回審議会で審議会としてまとめた適正規模（1校12～18学級）」とあるが、審議会としてのまとめかたに問題がある。賛否を明らかにする採決をせずに何となくでまとめているのか。事務局の進めたい方向に審議会を引きずり込んで共犯者にしていないかと。

意見22:

p.15「(7)適正規模を下回る中学校に対する方策について（第4～5回審議会）」について

なぜ「第二期（武蔵野市学校施設整備基本方針）計画期間中に改築予定の第二中学校、第六中学校を対象と」するのか？これこそ文科省「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議が指摘する通りの「当初予定していた学校施設改修のタイミングにあわせることだけを狙いとして短期間で学校の適正規模・適正配置の検討を行うことは本末転倒であり、望ましいものではない。」ではないか！文科省に反抗するなら、武蔵野市独自に1学級20名程度の少人数学級の教育を進めるとか、もっとポジティブな方向で反抗してほしい。

意見23:

p.15【第二中・第六中の改築について審議会で出された方策案】について

武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画では「今後の改築事業が予定される学校は、子どもの学びを第一に、全市民的な視点から中学校の適正な数や未来における教育を見据えた校舎のあり方について、子ども、教職員、保護者、地域の意見や専門家の知見を踏まえ、建築面や財政面など様々な観点も含めて検討し、改築を進める。」とあるのに、結局「改築順」という条件を後出しされて全市民的な視点からは検討されなかった。市長公約は嘘だったのか？この二次調には「第二中・第六中の統廃合は白紙」とはどこにも書いていない。だとするとこの第二期武蔵野市学校施設整備基本計画が市長公約を実現する場になるはずだ。27,024名の市民の信を得て当選した市長の公約を無視するのだから。

意見24:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のメリットについて「生徒が多様な人間関係を学べる。」とあるが、再編して生徒数や教員数が増えたからといって多様な人間関係を学べるとは限らない。多様な人間関係の学びに人数は関係ない。

意見25:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のメリットについて「教員数も多くなり、様々な対応が可能となる。」とあるが、教員数が増えても生徒数も比例して増えるので、生徒一人当たりの教員数が増える訳ではなく、何をもち「様々な対応が可能になる」と断言できるのかわからない。

意見26:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のメリットについて「財政面のメリットが大きい。再編で生じた財源をハード面・ソフト面に充当できる。」とあるが、「再編で生じた財源」が必ずしもそのままスライドして学校施設整備に充当できるとは限らないのではないかと？武蔵野市という大きい財布の中で、他の公共施設整備や施策実現のための予算にスライドする可能性だってある。

意見27:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のメリットについて「旧桜堤小学校敷地は、桜堤調理場や浄水場が近接し、地域防災の拠点になり得る。また坂道が少なく避難しやすい。」とあるが、大きなデメリットとして「六中が無くなることによって境1・3丁目住民にとって地域防災の拠点がなくなる」ことがあるのではないかと。この大問題に市職員を含めた委員や事務局が気がつかないのが信じられない。意見集約表にはすべての意見が掲載されている訳ではないのだから、大きなデメリットを隠したまま委員からの意見があったからといってこの“メリット”意見を載せるのは適切ではない。載せるべきではない。

意見28:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のメリットについて「旧桜堤小学校敷地は、桜堤調理場や浄水場が近接し、地域防災の拠点になり得る。また坂道が少なく避難しやすい。」とあるが、旧桜堤小学校敷地は武蔵野市第六期長期計画では「当面は桜野小学校の第2校庭として活用したのち、武蔵境園におけるスポーツ広場として整備するが、その時期については、隣接する公共施設の整備状況を勘案したうえで検討する。」とあり、また武蔵野市第六期長期計画・調整計画では「隣接する市立学校の改築等整備状況を勘案し、当面は近隣の小中学校の工程等として活用する。」とある。スポーツ広場としての整備をしないのであれば、まず第七期長期計画策定での議論が先なのではないかと。

意見29:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のメリットについて「旧桜堤小学校敷地は、桜堤調理場や浄水場が近接し、地域防災の拠点になり得る。また坂道が少なく避難しやすい。」とあるが、境5丁目や桜堤の“坂道の下”から旧桜堤小学校へ避難する住民にとって状況は何も変わらない。むしろ移動距離が長くなる。

回答18

市立小中学校は今後12校改築を控えており、改築を後ろ倒しすることで、改築までの間に延命化工事が必要になり、既に築後40～50年経過している学校について、多額の維持修繕コストがかかります。また、今後工事費が下がる見通しも立たないため、改築を後ろ倒しすることで、改築費用も増大する可能性が高いと考えます。

回答19

子どもの学び舎である学校は、市として重点的に取り組むべきであると考えます。

回答20

文科科学省「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議の「議論のまとめ案」を本審議会委員に共有するよう、教育委員会に依頼します。

回答21

適正規模を12学級以上18学級以下とすることについて、子どもの学びを第一に、学識経験者、市立小中学校校長、PTA会長、地域、公募市民、行政職員など様々な立場の方からの意見をもとに、審議会で審議した結果まとまったものであり、採決はとっておりません。また、事務局提案はありましたが、議論するための目安としての提案であり、国の標準、他市区の実績から示された目安であったと認識しています。

回答22

行政計画の策定は、一般的に1年間で実施することが多いですが、第二期計画は、2年間でかけて審議しております。また、審議会の期間中にも、各審議会後に審議経過をまとめたリーフレットを作成し、児童生徒、未就学児保護者への配布、市ホームページでの掲載、説明会の開催を教育委員会が実施しており、子ども、保護者、地域、教員にとってより良い計画になるよう、策定作業を進めております。

回答23

ご意見として承ります。

回答24

多くの生徒同士が関わる環境を整えることで、多様な人間関係を学べると考えます。なお、教育委員会が令和6年度に中学校生徒を対象に実施したスクールミーティングでは、「学級数が多いと色々な人と関わられるため、多様な視点を持てる」という意見があったものと認識しています。

回答25

ご意見いただいたように、学級数と教員数は連動して増えますが、多くの教員同士が連携しながら対応することができます。

回答26

ご意見いただいたように、再編で生じた財源がそのまま学校に関するハード面・ソフト面に充当できるとは限りませんが、今後未来における教育を見据えた校舎のあり方について、議論を深めていくにあたり、再編で生じた財源の充当も検討が可能となります。

回答27

ご意見いただいたように、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、現時点で第六中を避難所としている方の避難所をどこに設定するかが課題となりますが、第二小、境南小、桜野小、統合新校及び武蔵高校等から近い学校を避難所とするものと認識しています。この点を含めた防災面について、令和8年度の審議会で審議される予定です。

回答28

スポーツ広場の整備については、市全体の公共施設再整備の中で検討がされるものと認識しております。

回答29

ご意見として承ります。

回答30

no.2の回答をご参照ください。

回答31

no.1の回答をご参照ください。

回答32

ご案内いただいたデメリットは、審議委員から出された1つの意見です。なお、学級数が多い学校の方が、特別な配慮を要する子や教室に入れない子が落ち着いて過ごせる場所の確保など柔軟に対応できる教育環境づくりがしやすいこと、子どもが人間関係に困った際にクラス編成で配慮がしやすいことなどのメリットがあると考えます。

回答33

審議会の審議の中では、第二中、第六中は比較的学校同士の距離が近いと、学校として1か所避難所が減ることが、すぐにデメリットとなるものではないという意見が出ていました。

回答34

第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、現時点で第六中を避難所としている方は、第二小、境南小、桜野小、統合新校及び武蔵高校等から近い学校を避難所とするものと認識しています。

回答35

ご意見として承ります。

回答36

ご案内いただいたデメリットは、審議委員から出されて1つの意見です。ご指摘のとおり、子どもの教育環境を守ることは非常に重要であると認識しています。

回答37

ご意見として承ります。

回答38

小規模存続の対策として記載している「運動会や修学旅行などは複数校で合同実施にすればよい。」の意図は、学級数の少ない学校と学級数の多い学校を比較すると、学級数の少ない学校は運動会、修学旅行が盛り上がりにくいと、合同でやるとよいというものです。

回答39

ご意見として承ります。

回答40

第二中と第六中を再編し、統合新校を設置するという方は、審議会として中間まとめに初めて記載した段階であり、教育委員会としては、諮問中の案件について、各種団体と調整することは難しいものと認識しています。

回答41

ご意見として承ります。

回答42

ご意見として承ります。

意見30:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のデメリットについて「学区域が広がることから通学距離が長くなる生徒が出る。」とあるが本当にその通りで、六中が学区域である日赤周辺の境南町1丁目の生徒はどれだけ通学距離が長くなるのか。対策として自転車通学を認めればよいという問題ではない。荒天時は通学自体が危険になり、学びの保証はどうなるのか？

意見31:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のデメリットについて「学校がなくなることへの心理的な抵抗感が生じる。」とあるが、これを再編のデメリットと捉えているのならば再編なんかしないほうがいい。デメリットを打ち消せない事業に100億円以上かけるのは馬鹿馬鹿しい。

意見32:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編のデメリットについて「大規模校だと生徒の自主性・自立性が育ちにくいのではないか。」とあるが、子どもを桜野小・二中に通わせた保護者として本当にそう感じている。あれだけの大人数の大規模校でサバイブしていくには、子どもそれぞれの特性によって向き・不向きがある。埋もれてしまうだけならまだ良いほうで、行き渋りや不登校につながってしまう。

意見33:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編の対策として「避難所が減少するが、新設校の防災機能を強化し、防災拠点とすることで対応できる。」とあるが、この意見が出たということは、デメリットとして「避難所が減少する」という意見もあったのではないかと？わざとデメリットを隠していると疑わざるを得ない。

意見34:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編の対策として「避難所が減少するが、新設校の防災機能を強化し、防災拠点とすることで対応できる。」とあるが、避難所が無くなった境1・3丁目の住民はどう対応せよというのか？

意見35:

p.16「各委員の意見集約表」について

再編の対策として「大規模校でも小規模校でも生徒の主体性に大きな差はない。」とあるが、エビデンスを示されないまま"対策"として意見を載せられても説得力がない。

意見36:

p.16「各委員の意見集約表」について

小規模校存続のデメリットとして「財政面での影響が大きい。将来的に市独自の施策・サービスを縮小せざるを得ない可能性も高まる。」とあるが、子どもの教育環境を守るため、そうならないよう知恵を絞るのが市職員や市議の仕事ではないか。なぜ学校だけがそのケツを拭かなければならないのか？3年待てば卒業して人が入れ替わるからと舐めてかかっているのか。

意見37:

p.16「各委員の意見集約表」について

小規模校存続のデメリットとして「適正規模を下回る。」とあるが、そもそも適正規模が本当に"適正"なのか、数字の根拠を示されていない。根拠なくデメリットと言いつけるのは不適切だ。

意見38:

p.16「各委員の意見集約表」について

小規模校存続の対策として「運動会や修学旅行などは複数校で合同実施にすればよい。」とあるが、小規模校が運動会開催や修学旅行について困るよりも、大規模校が困ることのほうが多いのではないかと。実際、大規模校の運動会では保護者がゆっくり観覧できる状態ではないし、修学旅行では食事をとる店を選ぶことや学年全体で同じ体験をすることも制限がある。セカンドスクール・プレセカンドスクールも受け入れ先の選択肢が少なく、いつまで負担を受け入れてくれるのか、その対策はあるのだろうか？生徒数が多ければ引率する生活指導員の人数も必要になるが、確保する手立てはあるのだろうか？

意見39:

p.16「各委員の意見集約表」について

義務教育学校の設置（施設一体型小中一貫校）について、審議会で委員の指摘があったように義務教育学校の設置には武蔵野市第七期長期計画での議論が大前提。また、施設一体型小中一貫校については私立学校のように広い校地の確保や潤沢な教職員数を維持できる覚悟が必要。逆に武蔵野市にその覚悟があるのであれば、境南小や三小を施設一体型小中一貫校にしたら、私立中への生徒流出が止まる可能性があるのではないかと思う。「自宅から遠い市立中に通わなければならないなら私立中に通うのも同じ」と私立中を選択する子ども・保護者もいるのではないかと。

意見40:

p.16「各委員の意見集約表」について

【その他の意見】について、「地域や関係者への丁寧な説明が必要である。」とあるが本当にその通りで、「中間のまとめ」を出す前どころか審議を始める前に地域や関係者への丁寧な説明と議論が必要だった。「中間のまとめ」を今更のみ込み事はできない。

意見41:

p.16「各委員の意見集約表」について

【その他の意見】について、「教育にもっと投資すべき。財政については、教育以外の分野も含め、市全体として無駄の削減が必要である。」とあるが当然の意見だ。これこそが「教育面を第一に」の姿勢だと思う。

意見42:

p.16「各委員の意見集約表」について

【その他の意見】について、「建設費が高騰しているため、建設費削減の方策を検討する必要がある。」のも「教育面を第一に」考えるのであれば至極真っ当な意見だ。

意見43:

p.16「各委員の意見集約表」について

【その他の意見】について、「第二中のような学級数の多い学校と第六中のような学級数が少ない学校を比較する必要がある。」とあるが、これも当然。行事の盛り上がりや云々という根拠に欠ける議論よりも、表に出ていない（当事者への影響が大きいので出せない）ような「その時その学校に関わった生徒・保護者・教職員しか知らないような"問題"」について、その"問題"が改善されるような学校のあり方という観点で、学級数についての議論が必要だ。

意見44:

p.16「各委員の意見集約表」について

【その他の意見】について、「小中学生からの意見を取ってはどうか。」とあるが、「小中学生向け中間まとめリーフレット」は意見誘導と受け取られても言い逃れできないほど露骨な構成になっていた。リーフレットの指示通り「吹き出し部分の中」を読み進めると、二中・六中統合という解に誘導されてしまう。小中学生の意見を事務局や審議会の意見強化に使わないでほしい。

意見45:

p.17「審議会で出た意見」について

(1)再編<特徴>について、「多様な教育活動や教員の専門性向上が実現しやすい。」とあるが、根拠を示してほしい。仮に大規模であることが「多様な教育活動や教員の専門性向上が実現しやすい。」のであれば、いまある小規模校の教育活動や教員の専門性を否定することになる。

意見46:

p.17「審議会で出た意見」について

(1)再編<特徴>について、「中学校の生徒数・学級数が少ないと十分な常勤教員が配置されず、足りない部分は非常勤講師等を配置する必要が生じる。この場合、講師は学校が探すことになるが、昨今講師確保が非常に難しく、十分な指導体制が構築できていない学校もある。再編により適正規模の学校となることで全教科で常勤教員が確保される。」とあるが、「中学校の生徒数・学級数が少ないと十分な常勤教員が配置されない」事と、「講師は学校が探す」大変さや「昨今講師確保が非常に難しく、十分な指導体制が構築できていない学校もある」事は全く別の問題。分けて解決すべき。また、常勤・非常勤に限らず教員不足は起こっており、「適正規模」の学校となったとしても全教科で常勤教員が確保される保証はない。実際、審議会でも話題になった技術科の教員は数が少ないと聞いたことがある。

意見47:

p.17「審議会で出た意見」について

(1)再編<特徴>について、「人手不足を補うため、講師が複数の学校を掛け持ちするという案も出たが、それぞれの学校で生徒や学校の特性があり、講師の負担が大きい。」とあるが、これは小規模校・大規模校に関わらず起こっている問題であり、再編の議論と混ぜるべきではない。

意見48:

p.17「審議会で出た意見」について

(1)再編<特徴>について、「学級数が多いと、生徒が人間関係で困った場合に、クラス編成で配慮が可能となる。」とあるが、そういう困難を抱える学校ほど少人数の学級を複数作ることでより解決を目指すほうが「教育を第一に」子どものためになるのではないかと。

回答43

第5回審議会において、審議委員から、学校規模による学校運営への影響について説明がありました。そのことを含めた中間まとめの記載となっています。

回答44

教育委員会が作成したリーフレット「計画の中間まとめ_ご意見ばしゅう号」の記載については、児童生徒から意見募集をするうえで審議会が作成した中間まとめの内容をわかりやすく記載したものです。

回答45

学級数が多く、教員の数も多い学校の場合、教員が互いに切磋琢磨、フォローしつつ、教材研究の時間や研修機会を得やすくなるため、より多様な教育活動や教員の専門性向上につながりやすいと考えます。なお、学級数が少なく、教員の数も少ない学校の多様な教育活動や教員の専門性を否定するものではありません。

回答46

教科によっては教員不足の課題がありますが、適正規模未満の学校と比較すると、確保されやすいと認識しています。

回答47

ご意見として承ります。

回答48

1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。

回答49

ご意見いただいたように、第二中も立地としては同じ条件ですが、より大きな学校を建てることで地域防災の拠点になり得るという主旨の記載です。

回答50

ご意見として承ります。

回答51

ご意見として承ります。

回答52

適正規模を12学級以上18学級以下としている一つの根拠としては、すべての教科で東京都教育委員会から正規教員が配置される規模が、おおよそ12学級以上18学級以下のためです。再編により生じるデメリットの改善策について、統合新校の開校がより円滑なものとなるよう、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。

回答53

ご意見いただいたように、再編で生じた財源がそのまま学校に関するハード面・ソフト面に充当できるとは限りませんが、今後未来における教育を見据えた校舎のあり方について、議論を深めていくにあたり、再編で生じた財源の充当も検討が可能になると考えます。

回答54

ご意見いただいたように、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、現時点で第六中を避難所としている方の避難所をどこに設定するかが課題となりますが、第二小、境南小、桜野小、統合新校及び武蔵高校等から近い学校を避難所とするものと認識しています。第二中と第六中を再編し、統合新校を設置するという方策は、審議会として中間まとめに初めて記載した段階であり、教育委員会及び防災課としては、諮問中の案件について、各種団体と調整することは難しいものと認識しています。

回答55

第二中と第六中を再編し、統合新校を設置することで、通学距離が遠くなる生徒への対応としては、ご意見いただいたように、自転車通学の導入のほか、学区の弾力化について審議会でも意見が出ていました。また、統合新校の開校がより円滑なものとなるよう、審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。なお、学区の弾力化とは、市内の学校についてのことです。

回答56

ご意見として承ります。

回答57

多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えられます。また、最新の生徒数推計では、第二中と第六中の生徒数の合計が数年間は18学級を超える規模になることが見込まれますが、統合新校を設置する数年後には適正規模（12級以上18学級以下）になるものと考えています。また、第二中及び旧桜堤小敷地は、敷地面積、建ぺい率、容積率にゆとりがあるため、周辺の住環境に配慮しながら、ゆとりのある校舎を計画できるものと認識しています。また、適正規模の学校の方が、生徒が人間関係に困った場合に、クラス編成で配慮が可能となります。

回答58

ご意見として承ります。

<p>意見49: p.17「審議会で出た意見」について (1)再編<特徴>について、「旧桜堤小学校敷地は、桜堤調理場や浄水場が近接し、地域防災の拠点になり得る」とあるが、現在の二中も同じで条件はほとんど変わらない。</p> <p>意見50: p.17「審議会で出た意見」について (1)再編<特徴>について、「第二中学校周辺は坂道も多く、車いす利用者が避難しづらいが、旧桜堤小学校も含め改築すると解消される。」とあるが、境5丁目や桜堤の“坂道の下”から旧桜堤小学校へ避難する住民にとって状況は何も変わらない。むしろ移動距離が長くなる。</p> <p>意見51: p.17「審議会で出た意見」について (1)再編<特徴>について、「第二中学校周辺は坂道も多く、車いす利用者が避難しづらいが、旧桜堤小学校も含め改築すると解消される。」とあるがこの意見の要約は正しくなくて、委員が述べたのは「二中の校門から体育館（武道場）に避難するためには校内の急な坂道を下らなければならないので旧桜堤小学校敷地のほうがよい」という意見だった。これも、現在の第二中学校西側に体育館（武道場）への入口を新設することによって改善できるはずだ。</p> <p>意見52: p.17「審議会で出た意見」について (1)再編<特徴>について、「教育の充実のために適正規模を満たせる再編がよい。それに伴うデメリットは対策を検討すべき。」とあるが、「教育の充実のために適正規模を満たせる再編」の根拠を、適正規模の数字の根拠とともに示すべき。また、デメリットがあるならば計画の検討前に対策を示すべきである。</p> <p>意見53: p.17「審議会で出た意見」について (1)再編<特徴>について、「再編によりおおよそ50億円コストを削減できる。この財源の一部をソフト面の事業に充当可能。」とあるが、可能かもしれないが、削減したコストの一部が必ずソフト面の事業に充当される保証はない。</p> <p>意見54: p.17「審議会で出た意見」について (1)再編<課題>について、「避難所が減少するが、新設校の防災機能を強化し、防災拠点とすることで対応できる。」とあるが、避難所が無くなった境1・3丁目の住民はどう対応せよというのか？この意見を、境1・3丁目の住民や武蔵境自主防災会は納得できるのだろうか。実際に聞いてみるべきだし、審議会の委員や事務局は我が事として考えてみて、それでもなお、この意見を言い切ることができるのだろうか。</p> <p>意見55: p.17「審議会で出た意見」について (1)再編<課題>について、「通学距離が長くなる生徒がいるが、自転車通学を認めたり、学区の弾力化を図ることで対応可能。」とあるが、六中が学区である日赤周辺の境南町1丁目の生徒はどれだけ通学距離が長くなるのか。対策として自転車通学を認めればよいという問題ではない。荒天時は通学自体が危険になり、学びの保証はどうなるのか？また、「学区の弾力化を図る」とは三鷹市の市立中への越境通学を両市ともに認める保証をするということか？</p> <p>意見56: p.17「審議会で出た意見」について (2)小規模存続<課題>について、「第六中学校を今の敷地で建て替える場合、仮設校舎を建てると校庭が狭くなり、体育や部活動が十分に実施できない。」とあるが、第二しろがね公園に仮設校舎を建てることによって解決できるのではないか。また、改築順を調整して、仮設校舎を第二小学校の改築時にも使用することによってコストを軽減できるのではないか。</p> <p>意見57: その他審議会や市議会を傍聴して感じた問題についての意見 生徒数が増え学級数が増えたら割り当ての教員数が増えるのは当たり前なのに、「大規模校になると教員が増え学びの環境が良くなる」とさも“素晴らしい変化”が起こるかのよう説明するのはおかしい。大げさで誤解を生む粉らわしい説明だ。むしろ仮に二中+旧桜堤小跡地に18~20学級規模の中学校を建てたとして、現状よりたいして大きくならない箱（周りは低層の住宅地で上に伸ばせない）に、大人数が詰めこまれたが為に起こるストレスのほうが学びの環境にとって悪影響を及ぼすのではないか。子どもが通っていた頃の桜野小（28学級）や二中（12学級）がずっとそんな感じだった。人を含めいつもどこかが機能不全だった。学級崩壊もあった。</p> <p>意見58: その他審議会や市議会を傍聴して感じた問題についての意見 二中・六中統廃合の反対意見を「心理的な抵抗感」とまとめないでほしい。ひどい印象操作だ。たとえ議会や委員会の答弁として「議員の言いぶりをそのまま返した」のだとしても、機械的に「議員の言いぶりをそのまま返す」ことが、議員や市民にどのような印象を与えるか自覚すべき。「心理的な抵抗感」を言い換えたって答弁できるはずだ。</p>		
<p>51</p>	<p>二中と六中を統廃合したならば、防災拠点＝避難場所が少なくなります。境地区は人口が増えているのに、いざとなった時に避難所が狭くなると思います。よって、統廃合には反対です。</p>	<p>第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、桜堤調理場や浄水場が近接し、地域防災の拠点になり得ると審議会でも意見が出されていました。第六中を避難所としていた境地区の住民については、第二小、境南小、桜野小、統合新校及び武蔵高校等から近い学校を避難所とするものと認識しています。</p>
<p>52</p>	<p>第2中学校と第6中学校の統廃合はしないでください。審議会でも当事者となる委員が、小規模でもいい教育ができるという趣旨の発言をしておられました。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。</p>
<p>53</p>	<p>二中は二中、六中には六中の伝統と文化があると思います。それを守るためには、別々に建て替えたほうが良いと思います。税金は、教育のためにまず使ってほしいです。幸い武蔵野市は経済的には余裕のある行政の1つと言われており、それが叶う自治体だと思います。適正規模に子どもをあてはめず、それぞれの学校の伝統を重んじた決定をお願いいたします。</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。なお、それぞれの学校の伝統、文化はとても重要であるため、統合新校においてそれぞれの学校の歴史を残すこと、伝統、文化を引き継ぐことが重要であると認識しています。</p>
<p>54</p>	<p>○「適正規模」12~18学級について ・学級数が少ないと、“切磋琢磨”する教育活動がしにくいとの根拠はまるで明らかではない。クラス・教員同士の「切磋琢磨」というのも意味不明。 ・中学校1学年3クラス（4クラス未満）が「小規模」とは分類上の表現にすぎず、けっして「小規模」とは思えない。小学校1学年が1クラス（2クラス未満）と同列にはならない。 ・統合や分割を必須とする上限基準でも下限基準でもないものであり、あくまで「標準的」指針の数でしかないと思われる。 ・旧境北小・桜堤小の統合は、適正規模を「7クラス以上」としておこなわれたが、その後の桜野小の「大規模化」をどう評価したか不明である。 地域の人口動態は、市行政の力ではどうにもならないこともある。（桜野の場合はUR公団の建替え政策、大規模マンション群の出現）また、世代交代 ・子ども数は長期のサイクルで変動するので、大きな問題がない限り、場当たりに学校の形をいじるのはできるだけ避けるべきである。 ○適正規模を下回る中学校への方策について ・新たな「適正規模」を根拠として、「第二期計画期間中」の第二・第六中だけを対象として、「統合新校」が望ましいという「まとめ」は、拙速な判断であり賛同できない。 その理由 ①新基準を下限・上限規定とするのであれば、全小中学校を対象とした計画全体の見直しが必要となるはずである。 ②「各委員の意見集約表」にある「小規模存続」のデメリットは、仮設校舎と費用問題だけである。（このこと自体はそのとおりであると思う） 教育的な効果や、現状のままでの問題点は示されていない。 ○事業費の抑制と計画的な事業実施について ・現下の物価高騰が、改築計画に大きな影響を与えていることは理解できる。財政的に（他市と比べて）裕福で基金を計画的に積み上げてきた武蔵野市でさえ、厳しいことも。 ・だからといって、学校統合を促進するような施策は望ましいとは思えないし、国の学校改築への交付制度にも問題あるのではないか。 教育施設である学校は、事業目的ではないので、財政面からの「選択と集中の投資」対象ではないと考える。 ・市だけで対応できる課題ではないこともあり、緊急性や危険性を判断したうえで、学校改築の全体計画を「後ろ倒し」にする見直しをしてはどうか。 冷静な学校規模の検討がすすめられることを願うものである。</p>	<p>○「適正規模」12~18学級について すべての教科で東京都教育委員会から正規教員が配置される規模がおおよそ12学級以上18学級以下です。正規教員が配置されない場合に講師を採る業務は、教員不足の昨今では、大きな負担となっていることから、12学級以上の学級数が必要と考えます。子どもの学ぶ環境を確保するためには、教員数は重要な要素であり、教員数を決める学級数も同様に重要な要素と考えます。 ○適正規模を下回る中学校への方策について 第二中、第六中以降に改築を予定している第三中、第四中の改築についての方策を検討する場合、より直近の生徒数推計を用いる必要があると考えます。そのため、第三期計画の策定時に検討されるものと認識しています。 ○事業費の抑制と計画的な事業実施について 市立小中学校は今後12校改築を控えており、改築を後ろ倒しすることで、改築までの間に延命化工事が必要になり、コストがかかります。また、今後工事費が下がる見通しも立たないため、改築を後ろ倒しすることで、改築費用も増大する可能性が高いと考えます。さらに国の補助金についても増額される見通しが立たないため、改築を後ろ倒しすることは最善とは言えないと考えます。</p>

<p>55</p>	<p>1. 【方策に関する審議のまとめ】について 「第二中・第六中を再編し統合新校を設置する」ことに反対です。 2. その理由を以下列挙します。 ① 市民の願いは「2中・6中は統廃合しない」です。 ○ 先の市長選挙の際、小美濃氏の公約は「2中・6中の統廃合は白紙に」でした。 ○ その候補が当選して市長になっているということは、この「統廃合は白紙」すなわち「統廃合はしない」ということが、市民の願いであることを示しています。 ○ 審議会の中でも市民の委員には、統廃合はやめてほしいという意見が複数あったにもかかわらず、単純な多数決で「再編し統合新校」と決めてしまふのは、市民無視の暴挙であると言わざるを得ません。 ② 審議についての疑問 その1（適正規模は改正されていないのでは） ○ 第3回審議会で委員長は2回も適正規模を「12～18学級と決定します」と言っていたのに、説明会では「決めていない」と事務局が市民に説明していました。そして、第4回審議会では、「取りまとめた」と言い換えていました。 ○ しかし、小中学校の適正規模は「適正規模検討委員会」などで審議し教育委員会で決定するはずのものを数回の審議会で話題にした程度でまして「決定」してはいけなものです。 ○ まだ、武蔵野市の適正規模は「7学級以上」ではないでしょうか。 ○ 勝手に適正規模を変えたという条件に合わないから統廃合するというのはおかしいと思います。 ③ 審議についての疑問 その2（子どもの学びを第1にというが、本当か？） ○ 子どもの学びを第1に考えるという点から見たとき、なぜこの規模が「適正」だといえるのか根拠が示されていません。 ○ 文科省も、12～18学級が子どもの学びにとって適正だとはしていないと思います。 ○ 12～18学級が子どもの学びを第1に考えたときの適正な規模だという科学的な根拠を示してください。 ④ 審議についての疑問 その3（小中学校適正規模を考えるならもっと丁寧に！） ○ 次に平成27年1月27日 文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」の「3章 学校統廃合に関して留意すべき点」をそのままコピーします。この中で「児童生徒の教育条件の改善の観点」「学校づくりがまちづくりと密接に関わる」「学校がその目的を達成するためには、保護者・地域住民等の支えが必要」「地域住民や地域の学校支援組織と教育上の課題やまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていくこと」など挙げられていますが、そのような議論が十分なされたとは思えません。 <「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」18ページより引用> ○ 学校は児童生徒の教育のために設置されている施設であり、学校統合の適否の検討に当たっては児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据えるべきですが、地域住民から見た学校は、地域社会の将来を担う人材を育てる中核的な場所であるとともに、防災、保育、地域の交流の場など様々な機能を有している場合も多く、学校づくりがまちづくりと密接に関わる場合も多いところです。 ○ もとより、子供に求められる資質や能力は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、学校のみで育成できるものではありません。加えて、近年の社会の変化に伴い、多様化・複雑化するニーズに学校の教職員や教育行政の力だけで対応していくことは困難となっており、学校がその目的を達成するためには、保護者・地域住民等の支えが必要となっています。 ○ さらに、近年の教育改革により学校現場の裁量が拡大している中において、公費で運営される公立学校をモニタリングする主体として、保護者・地域住民等の学校関係者が学校運営に関わっていくことの重要性が一層増してきています。 ○ こうした中において「地域とともにある学校づくり」が求められていることを踏まえれば、学校統合の適否を検討する上では、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民や地域の学校支援組織と教育上の課題やまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていくことが大切になってきます。 ⑤ 適正規模を下回る中学校に対する方策の選択肢の不備（複合化は対象外ですか？） ○ P.15には「統廃合」「小規模存続」「義務教育学校」の3パターンが挙げられていますが、学校以外の公共施設や公共的なサービスのための施設を併設する「学校施設の複合化」という選択がここに挙げられていないことに疑問があります。文科省は「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」と題して平成27年11月に発表しています。そこには「学校施設の複合化・共用化を行うことにより、施設機能の高機能化・多機能化に伴う児童生徒や地域住民の多様な学習環境の創出、公共施設の有効活用、財政負担の軽減等につながることを期待される。」とあるように、児童生徒、地域住民、自治体財政負担などの観点からも進めているものです。 ⑥ 桜野小はどうしてくれる ○ かつての桜野小と境北小を統廃合してきた桜野小のマンモス化をどう総括するのかという点についての議論がされていません。これは欠かせないことだと思います。 ⑦ 適正規模はすべての小学校にこそ当てはめるべき ○ 小中学校の適正規模にわざわざ上限を設定するならば、まず、5校もの小学校が不適正な状態にあるのだから、その解消がまずなされるべきだと考えます。そもそも、審議会で18学級を超えた学校がどのように大変な状況なのか、議論されていないことが不思議です。3月は卒業式の月でしたが、5年生が卒業式に参加できない。コロナのためではなく、体育館が6年生とその保護者でいっぱいになってしまうので、5年生が参加できないのです。適正ではない規模だから起きているこの状況こそ直ちに是正されなくてはならないことではないでしょうか。 ⑧ 審議会傍聴者のアンケートは市民参加の第一歩 ○ 先の文科省の「手引き」にも再三触れられていますが、地域住民の声を聴くとか協力関係とか支えとかありますが、この問題に関心のある市民が傍聴にきているのだから、その声を聴くことは行政や審議会の仕事の一部です。それを拒否するのは仕事の怠慢とみられても仕方ないものです。きちんと傍聴者の声を聴いてください。アンケートを毎回実施してください。</p>	<p>①市民の願いは「2中・6中は統廃合しない」です。 小美濃市長の意図は、第二中、第六中統合について「実施しない」ではなく、「市民の意向を伺うため、ゼロから検討する」であると認識しています。また、審議会では、第二中、第六中改築の方策として、「再編し統合新校を設置する」案にまとめたが、その他の意見として、「小規模のまま存続」「義務教育学校の設置」についても中間まとめに記載し、パブリックコメントを取るということでもまとめたものである。 ②審議についての疑問 その1（適正規模は改正されていないのでは） 審議会としてまとめた小中学校の適正規模（12学級以上18学級以下）について、審議会として答申（令和8年12月予定）を出すまでは正式に決定はしていません。現時点では第3回審議会（令和7年11月6日開催）での審議の結果、まとめたものであり、この適正規模に基づく、第二中、第六中が将来的に適正規模に満たないため、改築の方策を検討しているものです。 ③審議についての疑問 その2（子どもの学びを第1にというが、本当か？） すべての教科で東京都教育委員会から正規教員が配置される規模がおおよそ12学級以上18学級以下です。必ず正規教員が配置されるとは限らないため、その場合、講師を採り配置する必要があります。 ④審議についての疑問 その3（小中学校適正規模を考えるならもっと丁寧に！） 教育委員会により、審議会経過説明会（令和7年10月、令和8年1月）及び中間まとめ説明会（令和8年3月）を開催し、地域、保護者との意見交換を実施していると認識しています。審議会として答申を出した後も、教育委員会が生徒、保護者、教員、地域の要望を聞きながら計画策定を進めていくことが重要と考えます。 ⑤適正規模を下回る中学校に対する方策の選択肢の不備（複合化は対象外ですか？） 学校以外の用途との複合化については、現行の学校施設整備基本計画において、「学校施設の複合化については、更新時の物理的余裕および地域性を鑑み、学校ごとに検討を行います。検討に当たっては、質の高い学校教育の実施、という施設本来の目的を踏まえたうえで、学校教育との親和性および教育効果の観点から行い、学校と管理運営を完全に分離し、学校（管理職）への負担がかからないことを前提とします。また、将来施設に余裕が発生した際に、さらなる複合化に対応できるよう、スケルトンイン・インフィルの設計を取り入れます。」と記載されております。 ⑥桜野小はどうしてくれる 令和7年度に実施した生徒数推計をもとに第二中、第六中改築の方策を検討しています。 ⑦適正規模はすべての小学校にこそ当てはめるべき 適正規模はすべての小中学校を対象とするものですが、本審議会への諮問文の内容として、「全市民的な視点から中学校の適正な数（中略）を検討」とされており、小学校は対象外です。なお、諮問文の内容は、市の最上位計画である武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画の内容に基づくものと認識しています。 ⑧審議会傍聴者のアンケートは市民参加の第一歩 審議会傍聴者へのアンケートは第6回審議会から実施します。</p>
<p>56</p>	<p>・「子どもの学びを第一に」という目的に対して、論点は財政や人数などが多く、その目的との乖離を感じる。どちらの判断においても、その目的は取り下げられるべきではないか。 中間とりまとめにおける小中学生向けリーフレットでは、話し合いのまとめとして「1学年4-6学級のぞましい」「新しい学校にまとめることがのぞましい」などが書いてあるが、子どもの学びに無理矢理つなげようとするこのような誘導的なことにつながる。子どもに、今の（自分の）学校・教育に疑問を呈させるようなことをするべきではないのでは。少子化なので統廃合も選択肢の一つとしてあがるのはやむを得ないが、その背景や理由を子どもに負わせるのではなく、しっかり説明するのが大人としての役割ではないか。 ・もし子どもの学びを第一にかかげるなら、子どもに対しての周知や意見収集、小学生以下の子どもがいる家庭への周知に務めるべき。境エリアの小・中の子どもがいるが、年度末の保護者会では一切説明はなかった。他の機会では教育委員からのビデオ上映があるなどした。 ・なお現時点で、すでにもう決まったんだよね、何を言っても自分たちの意見は通らないと諦めの声も聞かれる（保護者および子どもより）。そのようなメッセージとして受け止めてさせることがないよう、意見収集や周知のプロセスは大切にすべきである。（また特に統廃合計画が一度白紙にされたという二転三転のプロセスがあるので周知は大切。） ・統廃合の理由として、リーフレット等では、児童数の減少、クラス数の減少が大きな理由を占めているように感じた。しかし六中エリアは数字上ではその理由に当てはまらない。それが非常に合理的でないと感じる。 ・また、全市的に考えるのであれば、全小中学校の統廃合等に関する計画を出すべき。人数の推移や財政的な部分に基づくのであれば、今から計画を作れない理由はない。 ・クラス数は、将来的に、また国際基準として、より少人数学級が進むのであれば、児童数で考えるべきではないか。 ・仮に学校としての役割を終えたとしても、公共施設としての転用も考えられる。なお、学校施設の在り方についての意見交換会に出席した際、同じテーブルにいた中学校の先生は、大それた施設はなくてよいから、普通の教室として使え、必要であれば教室をつなげたり閉じたりしりたりできる使い勝手の良さがある施設や、思春期でその日の体調も変わる子ども多い中で、個別相談ができる部屋がほしいなどと言っていた。五中などの施設ではなくてもよく、それは他の公共施設にも転用しやすいのではないか。 ・全市的な視点であれば、ほかの公共施設計画とも含めた視点で学校施設も考えているのか。 ・災害時の避難拠点としての存在価値。仕事の関係で、東日本大震災などの災害現場に行ったが、想定外での避難を強いられるということは必ずおこっていた。境エリアにはコミセンはなく、境南エリアには中学校はない。畑などが大型マンションに変わるなかで、そもそも防災体制や避難所としての機能に不安がある。近いエリアでの拠点があるべき。</p>	<p>児童生徒数及び教員数は、子どもの学びに直結するため、重要な要素であると考えます。教育委員会が作成したリーフレット「計画の中間まとめ_ご意見ばしゅう号」の記載については、審議会が作成した中間まとめの内容をわかりやすく記載したものです。子どもへの周知や意見募集については、児童生徒へのリーフレット配布及びアンケート調査、未就学児のいる家庭への周知や意見募集については、保育園、幼稚園保護者へのリーフレット配布及びパブリックコメント募集周知を教育委員会がこれまでも実施しているものと認識しています。計画策定に関する周知については、各審議会後に審議経過をまとめたリーフレットを作成し、児童生徒、未就学児保護者への配布、市ホームページでの掲載、説明会の開催を教育委員会が実施しているものと認識しています。生徒数推計によると、第六中の生徒数は増える見込みですが、それでも審議会としてまとめた適正規模に満たない規模のため、子どもの学び、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点で課題が残るものと考えます。今回、第二中、第六中改築の方策を検討しているのは、第二期計画期間中に改築を予定しているためであり、第二中、第六中以降に改築を予定している第三中、第四中の改築についての方策については、第三期計画において生徒数推計を行い、その時点での様々な状況を勘案し、検討するものと考えます。1学級当たりの児童生徒数については、東京都教育委員会の基準に基づいて定められ、教員配置もそれに沿って決まるため、市区町村が独自に指導体制を決定することが難しい仕組みとなっています。今後の見通しは未定であり、不確定な要素で検討することはできません。未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。学校以外の用途との複合化については、現行の学校施設整備基本計画において、「学校施設の複合化については、更新時の物理的余裕および地域性を鑑み、学校ごとに検討を行います。検討に当たっては、質の高い学校教育の実施、という施設本来の目的を踏まえたうえで、学校教育との親和性および教育効果の観点から行い、学校と管理運営を完全に分離し、学校（管理職）への負担がかからないことを前提とします。また、将来施設に余裕が発生した際に、さらなる複合化に対応できるよう、スケルトンイン・インフィルの設計を取り入れます。」と記載されております。防災の観点について、第二中と第六中を再編し、統合新校を設置する場合、桜野調理場や浄水場が近接し、地域防災の拠点になり得ると審議会でも意見が出されていました。また、第二小、境南小、桜野小、統合新校及び武蔵高校等から近い学校を避難所とするものと認識しています。</p>
<p>57</p>	<p>先日の説明会の際、批判という趣旨ではなく、説明の内容が良くわからないので、質問させて戴きました。1）「中間まとめはあくまで「案」であり今後パブコメ等を経て検討していく」と理解しました。2）「なぜ今この計画をすすめる必要があるのですか？」という質問に対しての市からの答えは「上位政策である公共施設の維持管理費の抑制の為に必要な措置なので。建築費が高騰しており1校150億、2校で300億かかるところ、一校に集約して建替えれば仮校舎込みで250億で住むので50億の節約になります」というものでした。3）要するに、「子どもの教育の為に必要」かどうかは関係なく、立案されており、今この計画を進める必然性も必要性も無い。計画は白紙にすべきである。5）今後生徒数も減少する事が見込まれるのであり、その時点で状況を踏まえた施策を改めて立案すべきである。6）前から提案されているアイデアですが、中学校など既存の教育施設を、放課後等に、地域の多世代が交流する場として活用して欲しい。例えば、シニアと子どもたちの交流は双方に豊かさをもたらします。特に費用をかけて改修等する必要はありません。以上</p>	<p>no.1の回答をご参照ください。また、再編による財政面のメリットもあると考えます。学校以外の用途との複合化については、現行の学校施設整備基本計画において、「学校施設の複合化については、更新時の物理的余裕および地域性を鑑み、学校ごとに検討を行います。検討に当たっては、質の高い学校教育の実施、という施設本来の目的を踏まえたうえで、学校教育との親和性および教育効果の観点から行い、学校と管理運営を完全に分離し、学校（管理職）への負担がかからないことを前提とします。また、将来施設に余裕が発生した際に、さらなる複合化に対応できるよう、スケルトンイン・インフィルの設計を取り入れます。」と記載されております。</p>

58	<p>二中と六中の統合について</p> <p>生徒数の差等考えると統合により部活やイベントの充実が期待できると想像する一方、現状でも正直境南エリアからの通学距離はかなり遠い丁目があり、部活などに参加すると帰宅が遅くなり、運動部活後は通学疲労もやや強いと感じていた。</p> <p>統合してどちらかにしてしまえばその問題はさらに大きく、統合するのであればもっと駅に近いところに移転でないと子供の負担は大きく思う。</p> <p>自転車通学を可とするとしても、自転車へのルールの厳罰化が決まり通学に利用できるようにするには、事前に指導も必要であり、また、通学路の自転車通行帯整備なども考慮して欲しい。荒天時はバス利用できるのか？</p> <p>通学時間がかかることは子供の負担であり学校生活を終日させる足枷になる場合もあり、また、私学への進学を選択肢に入れるケースもやすくなると思われる。</p> <p>思いきってスクールバス運行も合わせて検討してはどうですか？</p> <p>また、現在それぞれの特徴がかなり違う印象がある2校を統合するに当たりそれぞれの特徴や方針、イメージのよい部分をどのように担保するのか？</p> <p>少し別件になりますが、境南には中学校がありません。</p> <p>それにより中学生世代の子が地域活動に参加することが極端に無くなります。</p> <p>境南地域での世代の繋がりが一時的に途切れてしまうのです。</p> <p>そのまま高校進学することで地域との関係が希薄になりやすいです。</p> <p>北側で統合するにせよ境南小出身者もいることも考慮し中学生を武蔵境エリア全体、境南町との関わりももう少し強く残すことも考慮していただきたいです。</p> <p>必要な変化はしていくべきですが、親目線大人目線だけでなく子供であることを想像した案が成熟する事を願います。</p> <p>武蔵野市の子どもたちがのびのびとより良い教育環境を得て個性を伸ばし、豊かな心と知識を養えることを望みます</p>	no.2の回答をご参照ください。
59	<p>二中と六中の再編について、六中に子供を通わせている保護者としての一意見です。</p> <p>六中は小規模校ならではの面倒見の良さや温かさのあるとてもよい学校で、第二子、第三子でもできれば通わせたいという思いでいます。</p> <p>そんな中、議論となっている六中の老朽化に伴う学校再編についてはとても残念に思っているのですが、どうしても統合が必要ということであれば、二中ではなく新たに武蔵野五中への通学も選択できるようにすることを視野に、検討していただけますと幸いです。理由は以下の通りです。</p> <p>①通学距離と通学路について:六中学区域の一部となっている境南町1,2丁目は境南町の東側にあたり、桜堤方面に出るより新武蔵境通りに出やすい家庭も多くあります。</p> <p>通学路も、細い路地を何度も通って二中に行くより、一旦新武蔵境通りに出てから北へ直進すれば五中に着くため、通いやすいと思います。</p> <p>特に距離が遠くなる場合に自転車通学を許可することも視野に入れるのであれば、車道や歩道から独立した自転車道が整備されている新武蔵境通りの方が、安全性も高いと思います。</p> <p>また、五小建て替えの際のスクールバス利用についても、色々と課題があったと聞いています。建て替えや閉校に関わる地区の小中学生が登下校にムーバスも柔軟に利用できるような路線、システムの整備もしていただくと安心安全で、便利だと思います。</p> <p>②学校の適正規模について：二中と六中を統合した場合、今年度で考えると12学級+7学級となり、新たに適正規模と決定した12-18学級を超過し、今後同様の事が起こる可能性があります。五中と統合すれば9学級+7学級となり、適正規模の範囲内となります。</p> <p>③今後築60年を超えてくる立替え前の二中に通うより、立替え済みの五中に通う方が、子供にとって環境面でもメリットが大きいのと思われまます。</p> <p>以上のことなども踏まえて、今後の学校、学区編成等について、幅広く検討していただけますと幸いです。</p>	no.2の回答をご参照ください。
60	<p>学校施設整備の必要性はあると思うが、子どもたちのことを第一に考えるようにしていきたい。例えば、通学の距離や安全性など。特に、中学校への距離の遠さに関する声が子どもや保護者からも聞かれるので、そういった課題の改善を図れるものであるといいと思う。また、境南小学校は校舎の老朽化で停電や水漏れなどの問題やクラス数の増加に伴う教室増で、どんどん使い勝手がよくなってきているので、そういった現場の現状も知っていただけたらうれしいです。</p>	no.2の回答をご参照ください。また、改築前の学校の維持管理については、市の担当部署が定期的に点検を実施し、必要な保全工事を行っているものと認識しています。
61	<p>中学校がなくなるにより、通学時間が長くなることがあり得る。生徒の安全確保が前提の上で意見を述べます。</p> <p>大規模校には、多くの教員が勤務する。そのため、一見すると生徒を多面的に理解できると思われるが、実際には難しい。単に、生徒を見る教員の人数が増えるだけでは、「多面的な生徒理解」は達成されない。校舎については、多数の教員が生徒の様子を見ながら校務に携われるように、フロアの中央に校務スペースを設けるとよいと思います。一方、教員の人数が多いほど校務が分散できるため、教員の負担軽減につながる良さがある。</p> <p>小規模校は、教員同士のコミュニケーションがとりやすいという良さがある。教員も自学年以外の生徒のことも把握しやすくなり、「多面的な生徒理解」が達成しやすくなるのではないのでしょうか。</p>	no.2の回答をご参照ください。
62	<p>本宿小学校の生徒数が減少を続けています。</p> <p>建て替えを機に第三小学校と統合されても良いと考えます。</p>	今年度実施した児童数推計においても、本宿小の児童数は減少する見込みとなっています。本宿小、第三小については、今計画の対象期間中に建て替えを予定していないため、次期計画において審議されるものと認識しています。
63	<p>中学校が6校から3校に統廃合されるかもしれないと知り驚いています。</p> <p>まだまだ知らされていない市民も多い中議論も足りてないはずです。</p> <p>地域とのコミュニケーションにもっと時間をかけて丁寧な行政をお願いします。</p>	ご意見いただいた点について、中間まとめP15の上段に記載（第3回審議会にて審議会としてまとめた適正規模（1校12～18学級）で20年後の中学校生徒数を単純に割ると、武蔵野市における中学校の数は3～4校になります）としていますが、あくまでも計算上の学校数です。中間まとめでは、第二期計画の計画期間中に改築を予定している第二中、第六中が将来的に適正規模を下回る見込みのため、両校を再編し、統合新校を設置することを載しています。教育委員会から地域に対し、引き続き丁寧に説明されるものと認識しています。
64	<p>再編により削減が見込まれる約50億円のコストの一部を、新しい学校でのICT環境の高度化に充当するとありますが、現状のタブレットの配布といった小中学校のICT化の施策の一部は、子供の荷物を増やし、日本の子供たちに途上国で国際的な非難の対象となっている水汲み労働に匹敵する5kg～10kgもの荷物を毎日背負わせているのが現状です。単に『端末を配布して家庭と学校を往復させる』だけでは、子供の身体的負担を増大させるだけの『現代の苦役』を強いているに過ぎません。子供の健康と健全な身体的発育を犠牲にしたICT施策は、真の教育環境の高度化とは到底呼べず、抜本的な運用形態の見直しが必要不可欠と考えます。</p> <p>さらに、子供が将来学校を出てICTを活用する10年後、20年後には、ICTテクノロジーはまるで異なる様相となっているでしょう。私自身小学校でフロッピーディスクの扱いを学びましたが、現代では骨董品となっています。現在小学校で教えられているタイピング、表計算、Google検索による調べ物などは、10年後、20年後には人間がやることでない可能性が高いです。</p> <p>以上から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも、タブレットを持ち帰らせるというスタイルを根本的に改める。 ・教科書の置き勉を可能にする。家庭の宿題用に必要ということであれば、教科書のデジタルデータを配布する。コピーを配布する。 ・今行っているICT教育が本当に10年後、20年後有効なのかを考え直す。将来も有効であるICTに向き合うスキルを高める。例えば、他の人間やAIと効果的に対話する国語力を鍛えたり、情報端末に奪われる集中力を取り戻す力を鍛える、など。 <p>を提案します。</p>	ご意見いただいたとおり、ICT環境含む、学校教育の様相の変化は著しいと考えています。ご意見として承ります。
65	<p>武蔵野市内で夜間中学（夜間学級）を1校ではなく力を入れていくか設置して欲しい。知的障害だろうと夜間中学に通え教育や社会生活の教育の場を早急につくって欲しい。自信や、生きがいをなくしてしまった息子の本来の姿を取り戻して、社会人になれるようにして欲しい。息子は武蔵野東小卒業し武蔵野東中学に入学したものの、中1の終わり2月半ば（発表会の行事）に、担任から真冬の雪がちらつく日、お水で頭をトイレで洗われ、演技は頑張っていたものの、その日帰宅する時から、一切口を聞いてくれず、お祝いも出来ない状況。祖父母にも無言でした。解散後車に乗ると余りにも様子が変だったので、たまたまおでこを触れるとすごい熱を出していました。次の日から、もともと気管支喘息、喘息持ちのため数日間風邪で休みました。その後、「学校行かない、行きたくない」と言い出し、その当時意味が分かりませんでした。半年位経過して、本人の口から、体罰となる事実を知りました。「発表会の日、中1担任の先生からお水で頭を洗われた。副担任の先生が水で頭を洗うの手伝ってくれた。ミニタオルの半分位の大きさのタオル持っていくなかったので、その小さなミニタオルで頭をふいたけれど、拭き取れなかった。お水で頭を洗われた事が怖くて、先生が怖いから行きたくない。大好きな先生だったのに怖い。先生怖い。」と、聞きました。中2年の担任は持ち上がらないように学校側に話をしましたが、息子はあの日以来、精神的にも更におかしくなり、自宅で倒れたり、頭痛、腹痛、吐き気、嘔吐、めまいを繰り返して起こし、人が怖いと引きこもりになりました。未だに外出がなかなか出来ず自分自身を見失っています。助けて欲しい。人生を返して欲しい。先生も友達も怖くないとイメージを返させて生きて行く力を付けさせて欲しい。私は50代の母ですが、自分が中学生の頃でも、このような体罰はされた事はありません。現在息子は19歳。今年二十歳です。このままではかわいそうです。知的障害あっても夜間中学をいくつかつくと通学されて、友達、先生から自信を持って生きていける人に育てて欲しい。色々興味もないので、楽しく過ごせる夜間中学を是非よろしく願います。</p>	大変な経験をされたと思います。夜間学校については、本審議会の対象ではありませんが、教育委員会に伝えてまいります。
66	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模校のメリットは、教員の校務分掌が減ることです。また、多様な教員がいるため、多様な教育、多様な働き方が可能となります。 ・大規模校のデメリットは、教員の児童理解が薄くなることです。児童数が多いため、全教職員が、全児童の特性を、細やかに把握することが難しくなります。 	ご意見いただいたように、学級数の多い学校、少ない学校それぞれにメリット、デメリットがありますが、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えています。
67	<p>二六中ブロックの統合について</p> <p>統合するメリット…部活等人数が増えるので、団体で活動することについて、より充実する</p> <p>統合するデメリット…校内の生徒人数が増え、教員数も増え、教員の連携や生徒への指導が難しくなることも</p> <p>それぞれメリット・デメリットがあるので、どちらでもよい</p>	ご意見いただいたように、学級数の多い学校、少ない学校それぞれにメリット、デメリットがありますが、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えており、二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。
68	<p>大規模校で勤務することは多かったが、大規模校は、行事の盛り上がりはあるが、教員の指導はとても大変となり、時間もかかって子どもたちへの教育活動にシワ寄せがきてしまう恐れがある。また、広い地域から子どもたちが通ってくることになるので、地域の子どもの安全を見守ることが難しい。全校で一同に会することも難しい。とても広い場所が必要となる。また、物の管理スペースも必要となる。教職員の人数は多くなるため、校務の軽減など働き方の改革にはつながりやすい。</p>	no.67の回答をご参照ください。

69	<ul style="list-style-type: none"> ・2学級や3学級の経験が多いが、3学級体制が活動しやすかった。 ・校庭が広い方がいい。 ・学年で共有できるスペースが欲しい。 ・落ち着いて学習する環境を整えてほしい。 	<p>学級数の少ない学校のほうが集まりやすいというメリットもありますが、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えており、二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。</p>
70	<p>小学校教諭として大規模校を経験したことがある。規模が大きくなることで仲の良い友達を見つけやすいこと、様々な考えに出会えることの良さがある。その一方でルールの増加や規律の徹底に偏る傾向があった。自由度を高めることや多くの子どもがリーダーを経験することに関しては課題があると考えられる。</p> <p>前任校で学校の改築が行われた際、校舎がきれいになることで児童が生活しやすくなった。冷水器の確保やスロープの設置はよかった。新校舎の設計の段階で、集会スペースの確保や現代風の設計になった側面がある。改築直後の新鮮さやおどろきはあったものの、使用してみるとケガの増加や安全配所の難しさに困った一面があった。学校の建て替えとしては、子供たちの動きが単純になることや教室の配置が分かりやすいことが大切だと感じた。</p>	<p>学級数の多い学校では、ご意見いただいたようなメリット、デメリットがあると考えますが、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えており、二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。</p>
71	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模校のメリット <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人数が多いので、校務分掌が分担しやすい。 ・行事が盛り上がる。 ○大規模校のデメリット <ul style="list-style-type: none"> ・学年の教職員の連携がとりづらい。 ○要望 <ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で集会ができるスペースがほしい。 ・学年ごとの教材室がほしい。 ・千川小のようなホールがあると、行事の時に保護者が観覧しやすい。入場の際のトラブルが減る。 ・全館空調がよい。 ・教職員が優先的に預けられる託児所があるとよい。 	no.70の回答をご参照ください。
72	<ul style="list-style-type: none"> ①大規模校のデメリット <ul style="list-style-type: none"> ・教員同士のコミュニケーションが取りづらくなる。 ・一人一人個々の対応がしづらくなるのではないかと。(人が多すぎて)現状、年々個別指導を要する児童が増えています。小規模校であれば、丁寧に対応ができる。 ②小規模校のデメリット <ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。教員同士も関わりが深いので働きやすい。 	<p>学級数の多い学校のデメリットがあると考えますが、多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えており、二中と第六中を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。デメリットをどう解決していくかを引き続き審議してまいります。</p>
73	<p>大規模校で以前勤務をしていました。その学校も二つの学校が統合しましたが、その後近隣にマンションなどが建ち、教室不足になるほどの大規模校となりました。</p> <p>感じたメリットとデメリットについて以下に述べます。</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童がお互いに多様な児童と関わるができる。 ・職員が多いので学校運営が行いやすい ・クラス替えなどで問題への対応がしやすい <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭のスペース不足 ・休み時間から戻る際や避難時の階段混雑、 ・運動会などの行事の時間超過 ・児童の持ち物の収納場所の不足 ・空き教室がなく、特別対応児童が落ち着く部屋がない ・クラス数が増えることで時間割編成が難しくなり、講師の条件が厳しくなる。教科担任の時間割編成が不可能になることがある。 <p>以上を踏まえ、今後数十年の児童数の推移を考えて統合を決定するべきと考えます。</p>	no.72の回答をご参照ください。また、教育委員会では令和7年度に児童生徒数推計を実施し、第二期計画の計画期間中に改築を予定している第二中、第六中が審議会としてまとめた適正規模を下回る見込みのため、両校を再編し、統合新校を設置することが望ましいとしています。
74	改築の際には、自校給食への移行ができるとよい。	小学校は改築の際に自校調理施設を設置することとしています。
75	これからの学校づくりにおいて、教員としては一斉授業だけでなく、個別学習やグループ活動がしやすいように、可動式の壁や家具を取り入れた教室にすることで学習形態に応じた環境づくりができるようになってきています。また、子どもたちが安心して過ごせるように、オープンスペースだけでなく、落ち着いて過ごせる小さな空間（クールダウンスペース）があると良いと思っています。	未来の学校のハード面のあり方については、今後の審議の参考とします。
76	これからの社会構造の変化を見据えると、特定の用途や目的に応じた設計ではなく、用途や境界が曖昧で、いろいろな使い方ができる設計がよいと思います。	no.75の回答をご参照ください。
77	<p>【意見提出者の属性】</p> <p>令和9年度に市立大野田小学校に入学、令和15年度に第四中学校に進学を予定している児童の保護者です。子どもには自閉スペクトラム症（ASD）の特性があり、教育環境を最優先に考え、近隣自治体より本市へ転居してまいりました。特性の強い子を持つ親の視点から、本計画が多様なニーズを持つ児童生徒とその家族を支えるものとなるよう、以下の通り意見を提出します。</p> <p>1. 具体的な進学時期を見据えた改築スケジュールの早期提示について</p> <p>中間まとめでは「築60年」を改築の目安としていますが、進学予定の第四中学校は現在築52年であり、我が子が中学に入学する令和15年には築59年に達します。</p> <p>ASDの特性を持つ子どもにとって、環境の急激な変化はパニックや不登校の引き金になりかねない重大なリスクです。また、保護者は学校環境に合わせて数年単位で支援体制を調整する必要があり、場合によっては私立中学進学も含めた検討を低学年時から行わねばなりません。「入学の数年前に工事が決まる」というスケジュール感では、適切な進路選択が困難です。</p> <p>各学校がどの年度に、どのようなフェーズ（現校舎・仮設・新校舎）にあるのか、5～10年先を見越した具体的な予測値を早期に開示することを強く要望します。</p> <p>2. 「オープンスペース」における感覚過敏への具体的な配慮の明文化</p> <p>計画で提唱されている「オープンスペース」や「柔軟な学びの場」は、刺激に敏感な児童にとって、音や視線の過多による過覚醒を引き起こす懸念があります。</p> <p>審議会でも「特別な配慮を要する子の居場所」が議論されていますが、これを単なる理念に留めず、標準仕様として「視覚・聴覚を遮断できるクールダウンスペース」や「物理的な構造化（パーテーション等による区切り）」を設計段階から確実に組み込むことを要望します。</p> <p>3. 保護者の「付き添い」を前提としたハード・ソフト両面の環境整備</p> <p>子どもの特性の度合いにより、保護者が長期間にわたって校内で付き添いや待機、慣らし登校のサポートを行うケースがあります。</p> <p>しかし、現状の中間まとめには「学びを支える保護者」の居場所に関する視点が欠落しています。第四中学校のように当面改築が先になる古い校舎や、改築中の仮設校舎においても、保護者が心身を消耗することなく付き添える待機スペース、衛生設備（大人用トイレ）、相談環境を「合理的配慮」として標準整備してください。施設の新旧によって、支援の質や保護者の負担に格差が生じないよう配慮を求めます。</p> <p>4. 就学検討・下見期間を考慮した情報の透明化</p> <p>発達障害児の進路検討は、入学直前の就学相談から始まるのではなく、その数年前からの学校見学や環境確認が必須です。「建て替え中で下見ができない」「入学直後に仮設校舎へ移る」といった不確実性は、家庭の意思決定を著しく阻害します。</p> <p>施設整備計画を「教育を受ける権利を保障するインフラ」と位置づけ、保護者が十分な検討時間を確保できるよう、改築に伴う教育環境の変化についての情報を公開し、個別の相談に応じる体制を計画に明記してください。</p> <p>提案の概要まとめ</p> <p>時間軸の解像度向上：特定の学校（第四中など）において、いつ環境の変化が起こるのかを早期に示すこと。特に外部支援との調整や進路検討が必要な家庭にとって、不透明なスケジュールは生活を脅かすリスクである。</p> <p>付き添い保護者への配慮：特性により不可欠な「保護者の付き添い」を支える物理的環境（待機室・衛生設備等）を、新校舎・旧校舎・仮設校舎を問わず標準化すること。</p> <p>環境変化への合理的配慮の保証：オープンスペース化に伴う感覚刺激の増加に対し、クールダウンスペースの設置や構造化を設計の必須要件とし、施設更新が子どもへの負担にならないよう保証すること。</p>	no.75の回答をご参照ください。改築スケジュールについては、令和8年度の審議会でも審議する予定です。

78	<p>財政状況、子どもの人口推計を踏まえた計画である点に、基本的には理解します。</p> <p>もっとも、触れている「新たな学び」の在り方を考えた場合、将来的な学校の在り方についての発想をもう少し柔軟、多様にしてもいいように思いました。文科省資料に依存し、肝心なところを独自に構想・創造しようとしていない点は残念です。</p> <p>(その文科省は、H27手引きの下記3つの基本的な考え方がなおも妥当とR8年3月に言っていることはご承知の通りです。①児童生徒の教育条件の改善の観点が学校の適正規模・適正配置の検討の中心であること。②検討に当たっては手引き上の基準に機械的に縛られることなく各地方公共団体において主体的に判断を行う必要があること。③学校を統合する場合と小規模校を存続させる場合のいずれの場合でもその利点を活かし課題を最小化する工夫が必要であること。)</p> <p>例えば、次のような考え方もあるはずで、中間まとめは、行政サイドによる結論ありきか、従来の仕組み(工業社会型人材養成としての学校制度設計)・「思い込み」から抜け出せていない議論となっており、議論が成熟していない印象を受けます。</p> <p>(1)学校は、社会教育施設や福祉施設との複合施設として存在していいはずで(今後そうなるでしょう)、そうすると財政的にも、学校改築・統合ではなく、横断的に考える必要が出てきます。</p> <p>(2)「たくさんの人と関われる方が、学びはってんしやす」いことはそうだとしても、それは1学年4～6学級が望ましいことに論理的になるでしょうか(これ以外にも、子ども向けパンフレットについては、両論併記がなされていないことに大きな違和感があります)。</p> <p>種々の問題(ex.部活、人間関係、切磋琢磨)の原因を学級数に帰責していませんか。学級数以外の原因である可能性や、学級数を増やす以外の解決の選択肢はありませんか?「適正規模」に(施行規則以外の)学術的根拠は示されていますか?</p> <p>(3)学習集団は必要だとしても、生活集団としての「学級」にとらわれた発想になっていないでしょうか。教員定数算定の法制上はそうだとすると、新たな学び、学校の在り方をそれに囚われなくて考えることができるはずで。学習・学びの適正規模をどのように考えればいいでしょうか。</p> <p>また、学校数を減らすことでの市のハード面の財政負担を減らす、その分、教員は市で独自に雇用することでソフトを充実させる、という選択肢・市民への説明の仕方もあるはずで。</p> <p>(4)「学級」規模と「学校」規模の両者を考える必要がありますが、「学級」規模の改善についての法整備が進みましたが、他方で「学校」規模が日本は大きく、また「学校」規模とストレス・問題行動との相関関係も、学校関係者は経験的に認識されていると思います。名前(や兄弟等その家族構成のようなことも含め)も知らない人たちと生活することで、子どもたちは心理的な安心感、存在承認を得られているのか、考える必要があります。</p> <p>以上は、例えばの例ですが、今後の武蔵野市の学校づくりの重要な審議会ですので、発想を広げてほしいというのが私の意見です。</p>	<p>(1) 現行の学校施設整備基本計画において、「学校施設の複合化については、更新時の物理的余裕および地域性を鑑み、学校ごとに検討を行います。検討に当たっては、質の高い学校教育の実施、という施設本来の目的を踏まえたうえで、学校教育との親和性および教育効果の観点から行い、学校と管理運営を完全に分離し、学校(管理職)への負担がかからないことを前提とします。また、将来施設に余裕が発生した際に、さらなる複合化に対応できるよう、スケルトンイン・インフィルの設計を取り入れます。」と記載されています。</p> <p>(2) 審議会としてまとめた適正規模を12学級以上18学級以下としている一つの根拠としては、すべての教科で東京都教育委員会から正規教員が配置される規模が、おおよそ12学級以上18学級以下のためです。</p> <p>(3) 多様な人間関係による社会性の育成や活発な集団活動を可能にし、専門的な教員配置と組織的な指導体制によって教育の質を安定させる観点から、12学級以上18学級以下を適正規模と考えています。他区で独自に教員を採用した事例では、東京都教育委員会が採用する教員になるために、別途採用試験を受ける必要が生じ、問題になった事例があり、市としても判断が難しいものと認識しています。</p> <p>(4) ご意見として承ります。</p>
79	<p>①第2回の策定審議会で「第四期武蔵野市学校教育計画」の本書と概要版が資料となっていました。未来の学校施設を考える上で、学校施設は学校教育以外の視点も重要な施設でとっていくので、全市民的観点で話し合いをしていただくために、武蔵野市の最上位計画の「第六期長期計画・調整計画」(https://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/046/526/6chousei-keikaku.pdf)も資料として共有が必要だと思います。第1回目の際の資料では、「第六期長期計画・第二次調整計画」の「抜粋」のみだったので、「第二次調整計画」(https://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/049/202/dairokkiyoukikeikakudainijiyouseikeikaku.pdf)の全文と合わせて委員の皆さんへの共有・確認をお願いします。</p> <p>②第2回審議会で委員からの「特別支援学級は数に入っていますか?」という質問に対し、事務局からの答えは「入らない」との答えがありました。中間まとめP10の図表に支援学級の数は入りましたが、武蔵野市に住んでいる特別支援学校に通っている子ども達の数はP9にも出ていません。12学級以上～18学級以下の学級数に支援学級の数を含むかどうかの議論をするという視点ではなく、そもそもの通常学級環境の包摂(インクルージョン)性を高める学校施設にしていくにはという視点の議論となります。中間まとめ案の12学級以上～18学級以下の学級の中に、現在は支援学級や支援学校に通っている障害のある子ども達や多様な背景がある子ども達を包摂できる通常学級にしていくにはどのようにしたらいいでしょうか?この話が審議会で出ていないように思います。第1回審議会の委員長からの資料においても、前提となる社会の変化の部分で、「共生社会(社会的包摂)」がありましたが、第2回以降の審議会でこの点が入ってこないことに疑問を持ちました。第六期長期計画・調整計画P65にはインクルーシブ教育システムの充実を図るとありますが、目指すところはインクルーシブ教育の実現に向けて、と未来に向けた視点が綴られてあります。特別支援学級だけでなく、特別支援学校に通っている子ども達、学校に通いづらくなっている子ども達がとても増えています。すべての子ども達のインクルーシブ教育の権利が保証され、共生社会(社会的包摂)の実現に向けた学校施設整備計画となるようにしていきましょう。</p> <p>③第2回審議会で委員からのご説明資料に、「学校施設におけるバリアフリー化の一層の推進について(通知)」のことがあり、情報共有していただきとでもありがたかったです。「バリアフリー?」という「物理的バリア」だけで考えられがちだけれど、それだけでなく「心理的バリア」もあるのではという部分に共感しました。他にも「制度的バリア」も学校には現在あると思います。「物理的バリア」については、2025年8月に開催されていた「令和7年度バリアフリーネットワーク会議」(https://www.city.musashino.lg.jp/shiseijoho/shisaku_keikaku/toshiseibibu_shisaku_keikaku/machizukuri/barrierfree/barrierfree_kaigi/1051457.html)が第五中学校で開催されていました。施設見学もあり、そこでそれぞれのお立場で委員出席されていた当事者の方から出ていた意見が、今後の学校施設基本計画の審議をする上で必要に思いました(会議要録:https://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/051/457/kaigyouroku.pdf)。学校教育としてもですが地域の人なども活動し利用し、地域の防災拠点ともなる学校施設なので、お話を聞くなど共有していただける機会があるといいと思います。</p>	<p>①ご意見いただいたように、未来の学校施設を考える上で、学校施設は学校教育以外の視点も重要な施設であるため、「武蔵野市第六期長期計画・調整計画」及び「武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画」を本審議会委員に共有するよう、教育委員会に依頼します。</p> <p>②通常学級環境における包摂性については、第四期武蔵野市学校教育計画策定時に審議されており(P27)、当該計画に基づく記載を第二期学校施設整備基本計画にするものと認識しています。</p> <p>③ご意見いただいたように、未来の学校施設を考える上で、バリアフリーの視点は重要であるため、令和7年度バリアフリーネットワーク会議の会議要録を本審議会委員に共有するよう、教育委員会に依頼します。</p>